

2018 March

東京都市大学 校友会
TOKYO CITY UNIVERSITY

都市

vol.05



巻頭言

母校のさらなる 発展のために

東京都市大学 校友会 副会長
川辺加代子 (S50 国文)



東京都市大学校友会は平成 25 年 4 月に発足してから 5 年が経過し、本年 4 月には 6 度目の春を迎えようとしています。発足からの 2 年間はほぼ手探り状態での運営でしたが、その後の 3 年

間で本会の活動の基盤の構築と活性化が推進されてきました。

本部における各種委員会活動では活発な討議により新たな施策が生まれ、着実に実施されてきています。

また、地方支部においては旧武蔵工業会と旧美砂会との統合が推進され、その数は平成 29 年度末で 36 支部となりました。統合にあたっては、その実現とさらなる強化のために各支部の支部長をはじめ役員の皆様に多大なるご尽力をいただき、心より御礼申し上げます。

さらには、平成 29 年 7 月には学内支部の再立ち上げが実現し、職場支部とともに活性化に向けて活動を開始しました。そうした様々な取り組みの模様は毎年まとめられる事業報告等に反映されておりますので、ぜひご一読いただきたいと思います。

さて、現在、母校では再び迎えた 18 歳人口減少化の波を乗り越えるために、

今や大学全入時代といわれる中であってブランド力向上を図り、“選ばれる大学”を目指して様々な取り組みを実施されています。

しかし、そうした取り組みには大学だけの努力ではなく、全国に広がる卒業生のネットワークを有する校友会の協力こそが必要不可欠なのではないでしょうか。母校の発展のために、卒業生がそれぞれの地域や、職場等において東京都市大学の名称、魅力の周知に努め、母校が一人でも多くの優秀な入学生を確保するための支援活動に取り組んでいきたいと思ひます。

そのためにも、大学や校友会から発行される広報誌やホームページを通して発信される情報に関心を持ってください。そして、母校を愛し見守ってください。それこそが、母校を支える第一歩になるのではないのでしょうか。

最後に、会員の皆様のご健勝をお祈りし、巻頭の言葉とさせていただきます。

我々にとっての 校友会のあり方

東京都市大学 校友会 副会長
吉村正伸 (H13 環境情報)



平成 25 年に新しい同窓会組織として設立された校友会も早くも 6 年目を目前とする季節を迎えました。設立以来、関係各位のご尽力と会員皆様のご支援によ

りその基盤を整備しつつあります。大学が三木学長の提唱される「国際標準大学への進化」に向けて更なる変革を進める中で校友会もまたその歩みを共にしていく必要があると考えています。

これまで同窓会の重要な役割として旧交を温めるための名簿の管理や各交流会の開催などがありました。しかしながら昨今のインターネットや携帯電話の発達により、特に新しい世代の会員においてこれらの役割を校友会に求められることが少なくなっています。そのため今後会員となる次の世代のためにも校友会の新しい役割を更に見出していくことは会の発展の一つの課題であります。

昨今、医療技術の向上と人々の健康意識の高まりにより先進国の平均寿命は更に長くなると言われています。ベストセラーとなった書籍「ライフシフトー 100

年時代の人生戦略」では、2007 年生まれの人の約半数は 104 歳まで生きる可能性があり、今後いわゆる“生涯現役”といったライフスタイルが一般化するだろうと述べられています。そうなれば、人生における変化はいままで以上に多様になり、新しい機会を得るためにより多くの人とのつながりや出会いを求めることが多くなるでしょう。

こうした中で今後校友会は同窓生の集団の中で“世代を超えた互助の活性化”つまりは会員の皆様が新しい機会や出会いを同窓会の中にも求めることができるといった調整役を担っていくべきではと考えています。こうした活動の結果としての会員各位の更なる充実と発展はひいては大学発展のための支援の活性化にもつながると考えています。是非皆様のご意見もお伺いさせていただきますと存じます。

国際標準の 大学への展開

東京都市大学 学長
東京都市大学 校友会 顧問
三木 千壽



1月より学長としての2期目に入りました。これまでの3年間、国際標準の大学への進化をめざして、教育と研究の両面で様々な改革を進めてきました。少しずつですが、国際標準の大学への進化の兆しが見えてきたような気がします。しかし、まだまだ世界標準の大学への道程は長いと考えています。次の3年間では、国際標準の大学への進化に向けてさらに努力するとともに、国際標準の大学としての具体的な展開を探りたいと思います。

ところで国際標準の大学とは、どのような大学でしょうか。私は、全世界から学生や教員、研究者が集まる「知の拠点」だと考えています。立場・国籍・人種・年齢・言語を超えて、学び、議論し、研究する、トップレベルのセミナーが常時開催される、そこでは国際など死語となります。

もちろんそのような大学には、すぐには到達できません。そのためには、まずは都市大が魅力的であり、世界に向けて情報を発信し、世界から認知されることです。その実現には、実績を積み重ねなければなりません。やれるところからやる作戦、出る杭を伸ばす作戦も効果的と考えています。都市大には他大学に対してのアドバンテージがあります。それは、先輩たちの高い実績と評価、教員の意欲、ポテンシャルの高い学生たち、産業界からの期待感、そして世界最大の都市圏の中心に位置するキャンパスです。このアドバンテージを

100%活かすことが重要です。

大学の国際化、グローバル人材育成は都市大だけの課題ではありません。日本の大学共通であり、国としての課題でもあります。最近の学生や研究者の流動、研究成果などに関する様々な統計は、日本だけが世界の流れの中で取り残されているように見えます。当然ですが、世界の大学の中で、日本の大学の存在感は落ちる一方です。大学世界ランキングなど欧米が作った統計では、英語を使わないから不利になっている、本当の実力は高い、といった声も聞こえますが、もはやそのような言い訳が通るような状況にはありません。

さらなる課題は、IoT・AIの進化への対応です。「2040年には現在の雇用の40%が消失」、「企業の寿命30年」、「人生100年時代」は現実であり、従来の「学び、就職、引退」といった一方向のキャリアパスが成立しない時代を迎えています。すなわち、学びが大学の4年間で終了は成立しないこと、繰り返しの学びが必須の時代が来ていることを示唆しています。今のままの大学では、その学びの場が大学ではなくなる可能性が高いと考えています。都市大としては、そのようなりカレント教育の場として選択されるようなプログラムも用意するなどの体制を整えていきます。

ICTの進化は教育の質とスタイルを変えつつあります。多くの大学でアクティブラーニング、反転授業、PBLの導入などがホットな話題になっていますが、

これらは教育の質向上での切り札になると思います。さらには、ICTを活用することにより講義室がない大学、キャンパスのない大学が出現しています。世界中の大学がネット上で競い合う、学生はそこから最も魅力的な講義を選んで聴講する時代が目の前に迫っていると思います。大学における、入試、カリキュラム、学位認定、授業料など、すべてが変わる可能性があります。これも大学の生存をかけた競争です。

都市大は2029年には100周年を迎えます。創立100周年をどのようにお祝いをするかについて、校友会の皆様と準備に入らなければと考えています。創立90周年を迎える2019年は、100周年事業に着手する良いタイミングと思います。早い時期に話し合いを持ちたいと考えています。大学としては、長期計画である「アクションプラン2030」に掲げている目標の実現を目指します。アクションプランの2030は100周年を指しています。アクションプランのうちの「キャンパス教育環境向上」の実現に向けてキャンパスは大きく変貌する予定です。そのキャンパスで、どのような教育と研究をし、人材を輩出するのが重要であり、「国際標準の大学への展開」の具体的な姿と実現のためのロードマップを急ぎ作り上げる所存です。

引き続き、校友会の皆様のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

平成 29 年度定期総会

平成 29 年 6 月 17 日（土）に世田谷キャンパスにおいて、平成 29 年度定期総会を開催しました（29、30 ページ参照）。

同日は 13 時から、総会を行い、「平成 28 年度事業報告」、「平成 28 年度収支決算報告及び監査報告」、「地方支部の区分とそれに伴う会則の改正」を承認し、「平成 29 年度事業計画」、「平成 29 年度収支予算」、「維持会費について」、「ICT によるコミュニケーション基盤の導入について」を報告し、「進路相談会実施状況」を映像により紹介しました。また、総会終了後、功労者表彰及び受賞慶祝（平成 29 年度知財功労賞）を行いました。

引き続き、14 時 45 分から、「お風呂・温泉を使った健康づくり」をテーマとして、東京都市大学人間科学部教授 早坂信哉氏による講演会を行い、健康維持のための入浴方法についてお話をお伺いしました。

その後、16 時から懇親会を行い、会員相互の一層の親交を深めました。

（出席者 総会：113 名、講演会：138 名、懇親会：147 名）



東京都市大学と校友会共催講演会

大学と校友会共催で「軍艦島をはかる」をメインテーマとした講演会を 3 回に亘って企画し、第 1 回を平成 29 年 3 月 25 日（土）、第 2 回を同年 9 月 30 日に行いました。第 3 回は、平成 30 年 3 月 24 日（土）に行います。講師は、軍艦島の建物について研究をされている濱本卓司氏（東京都市大学名誉教授）並びに、父君が炭鉱の鉱長で、中学 1 年まで島で過ごした中村陽一氏（S38 建築、元 NPO 法人軍艦島を世界遺産にする会理事）で、それぞれの立場でお話いただきました。（会場はいずれも、「二子玉川夢キャンパス」）

第 1 回テーマ：軍艦島をなぜはかるのか。 受講者：107 名

第 2 回テーマ：小中学校（70 号棟）、耐波建築（31 号棟）、最大の建物（65 号棟）をはかる。



受講者：80 名

第 5 回校友会親睦ゴルフ大会

平成 29 年 11 月 6 日（月）に今回初めての会場となる厚木国際カントリークラブにおいて正会員、大学教職員合わせ 19 名の参加により親睦ゴルフ大会を行いました。前回（第 4 回）は台風接近のため中止となり、2 年ぶりの開催となりました。当日は、天候にも恵まれ、丹沢山系を背景に順調にプレイが進み、相互の懇親をより一層深めることができました。



第 3 回校友会夢キャンパスセミナー

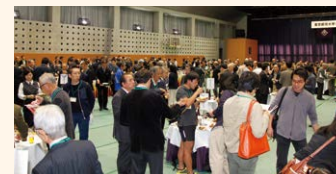
平成 29 年 10 月 14 日（土）に「二子玉川夢キャンパス」において、「南極に立てた風車 一南極観測隊出張報告」と題し、中村英明氏（H6 機械、第 53 次南極観測隊員）から、現地で撮影した映像を交えて南極観測隊としての興味深い体験をお話いただきました。（受講者：33 名）



ホームカミングデー

平成 29 年度も大学と共催により各キャンパスにおいてホームカミングデーを行いました。

- ・世田谷キャンパス 出席者 276 名（招待者 178 名、迎え側 98 名）
- ・横浜キャンパス 出席者 92 名（招待者 53 名、迎え側 39 名）
- ・等々力キャンパス 出席者 100 名（招待者 63 名、迎え側 37 名）



ビール工場と南極観測船見学会

平成 29 年 11 月 26 日（日）にサッポロビール千葉工場（千葉県船橋市）及び隣接の元南極観測船初代「しらせ」の見学会を 12 名の参加により行いました。「初代しらせ」（1983 年～2008 年就航）の船内をガイドの説明により見学し、次に、ビール工場の見学・説明を聞き、その後、敷地内の「千葉ビール園」でバーベキューによる懇親会を行いました。参加者が少なかったのは残念でしたが、和気藹々の懇親会となりました。



平成 29 年度第 1 回校友会のあり方検討会

この検討会は、校友会の存在意義を認識し、今後の活性化に向け建設的意見を討議する場として平成 28 年度から実施しているもので、今年度から、会長諮問機関として位置付けとなっています。平成 29 年度としては第 1 回校友会のあり方検討会を世田谷キャンパスにおいて、12 月 9 日（土）に行いました。今回のテーマは、「①財源確保について ②比較的新しい学科同窓会への支援について ③各委員会・部会への若手メンバーの登用について ④校友会の親睦行事について」を取り上げ、5 つのグループに分けて討議を行い、全体会でそれぞれ報告を行いました。今後ここでの意見を整理し、校友会運営に何らかの形で反映されていくと思われます。



校友会進路相談会

平成 29 年 12 月 6 日（水）及び 20 日（水）の両日に校友会主催の進路相談会を世田谷キャンパスにおいて行いました。この企画は、学生達がより適切な進路を選択できることを支援する目的で、平成 28 年度より実施しています。平成 29 年度は、参加企業 69 社、参加学生 235 名で、実施日が前年度より 2 日に増えたことにより、参加企業、参加学生とも倍増しました。当日は、全体会で、オリエンテーション及び参加企業の紹介があり、その後、各教室で企業毎の個別相談会を行った後、更に懇親会の場を設け、卒業生と学生の交流を深めました。今回も参加各企業、学生達から意義のある会合であった旨の意見が多数寄せられ、今後への期待が大きくなっています。

支部だより

支部総会報告・予定表

支部名	平成 29 年度（平成 29 年 3 月～平成 30 年 2 月 10 日開催分）				平成 30 年度 開催予定
	開催日時	場所	本部からの 出席者	支部会員 出席者数	
大成柏会	3 月 24 日（金）18：00	Y's	吉田会長 他 1 名	57	3 月下旬
鹿島柏会	4 月 13 日（木）18：30	鹿島建設本社	吉田会長 他 3 名	39	4 月上旬
佐藤工業武佐工会	4 月 14 日（金）18：30	Japaria Legna	吉田会長 他 3 名	21	4 月
島根	5 月 20 日（土）14：30	浜田ワシントンホテルプラザ	吉田会長 他 3 名	11	4 月 20 日（金）
京滋	5 月 27 日（土）12：00	琵琶湖ホテル	吉田会長 他 1 名	22	5 月 26 日（土）
愛媛	5 月 27 日（土）18：00	伊予鉄会館 2F	松村副会長 他 2 名	16	6 月 2 日（土）
福島	6 月 3 日（土）15：00～ 6 月 4 日（日）	いわき湯本温泉雨情の宿「新つた」	吉田会長 他 1 名	34	6 月 2 日（土）
長野	6 月 3 日（土）14：30	ホテルモンタニュー松本	川辺副会長	35	6 月
秋田	6 月 3 日（土）18：00	秋田キャッスルホテル	松村副会長 他 1 名	17	6 月 16 日（土）
徳島	6 月 8 日（木）18：30	味の城	望月職場支部部会長	10	6 月
山口	6 月 10 日（土）17：15	長門湯本温泉 大谷山荘	吉田会長 他 1 名	19	未定
広島	6 月 10 日（土）15：00	ホテルセンチュリー 21 広島	原口副会長	19	6 月 9 日（土）17：00
鳥取	7 月 1 日（土）15：30	鳥取ワシントンプラザ	松村副会長 他 2 名	14	7 月 7 日（土）
千葉	7 月 1 日（土）14：30	千葉スカイウィング 東天紅	吉田会長 他 3 名	46	7 月 7 日（土）
東海	7 月 8 日（土）15：00	トヨタ産業技術記念館	齋藤支部委員 他 1 名	44	7 月 7 日（土）か 14 日（土）
栃木	7 月 15 日（土）15：00	ホテルマイステイズ宇都宮	吉田会長	26	7 月 7 日（土）か 14 日（土）
富山	7 月 15 日（土）17：00	富山電気ビル	松村副会長 他 1 名	22	7 月 21 日（土）か 28 日（土）
学内	7 月 21 日（金）18：00	東京都市大学 世田谷キャンパス	吉田会長 他 5 名	21	7 月 20 日（金）
山形	7 月 29 日（土）15：00	ホテルメトロポリタン山形	松村副会長 他 1 名	22	6 月 30 日（土）
北海道	8 月 25 日（金）18：30	ホテルモントレエーデルホフ札幌	望月職場支部部会長 他 1 名	36	8 月 24 日（金）
鹿児島	9 月 9 日（土）18：30	ホテルレクストン鹿児島	吉田会長 他 3 名	13	9 月 8 日（土）
埼玉	9 月 9 日（土）17：00	東天紅 JACK 大宮店	原口副会長 他 4 名	30	9 月 8 日（土）
熊本	9 月 16 日（土）16：30	KKR ホテル熊本	吉田会長 他 1 名	20	9 月 15 日（土）
静岡	9 月 16 日（土）14：30	プラザヴェルデ	松村副会長 他 3 名	38	9 月
湘南	9 月 30 日（土）14：20	東京都市大学 横浜キャンパス	吉田会長 他 3 名	14	9 月下旬か 10 月初旬
川崎				15	
横浜				20	
大阪奈良	10 月 14 日（土）17：00	大阪マルビル 大阪第一ホテル	吉田会長 他 1 名	19	10 月の土日
新潟	10 月 14 日（土）15：30	新潟調理師専門学校	松村副会長 他 2 名	31	10 月 13 日（土）
福岡	10 月 20 日（金）18：30	酔灯屋 天神店	吉田会長 他 2 名	28	10 月
岡山	10 月 21 日（土）16：30	メルパルク岡山	吉田会長 他 1 名	5	10 月 13 日（土）
沖縄	10 月 21 日（土）18：30	ホテルロイヤルオリオン	齋藤支部委員 他 2 名	14	10 月前後
宮城	10 月 27 日（金）18：00	パレス平安	松村副会長 他 1 名	34	10 月 27 日（土）
長崎	10 月 29 日（日）18：30	長崎 IK ホテル	吉田会長 他 2 名	3	10 月 27 日（土）
佐賀	11 月 4 日（土）18：00	からつ温泉 錦屋	吉田会長 他 2 名	7	11 月 10 日（土）
大分	11 月 11 日（土）17：30	トキハ会館	海老沼常任幹事 他 2 名	13	10 月下旬～ 11 月上旬
香川（設立総会）	11 月 11 日（土）16：00	天勝本店	松村副会長	13	6 月 30 日（土）
兵庫	11 月 12 日（日）12：00	東急 R E I ホテル	吉田会長	21	11 月 10 日（土）
飛鳥柏会	11 月 17 日（金）18：00	中華料理 東天紅 東京国際フォーラム店	吉田会長 他 1 名	24	11 月
茨城	11 月 18 日（土）11：30	水戸市三の丸ホテル	松村副会長	41	隔年のため、非開催
宮崎	11 月 18 日（土）11：00	宮崎観光ホテル	齋藤支部委員 他 5 名	20	10 月
和歌山	11 月 19 日（日）11：30	アンド・レギウム	望月職場支部部会長 他 1 名	8	11 月
横浜市役所	11 月 29 日（水）18：30	ホテル横浜ガーデン	吉田会長 他 2 名	62	11 月
石川	1 月 28 日（日）17：00	ホテル日航金沢 3 階「孔雀の間」	吉田会長 他 2 名	27	1 月 26 日（土）未確定
高知（設立総会）	2 月 3 日（土）17：30	土佐料理司	吉田会長 他 2 名	17	6 月
川崎市役所	2 月 9 日（金）～ 10 日（土）	熱海ホテルニューアカオ	吉田会長 他 2 名	60	2 月

* 福井支部設立総会は平成 30 年 4 月 28 日（土） * 岩手支部再立ち上げ総会は平成 30 年 6 月 9 日（土）を予定しています。

地方支部だより

◆北海道支部

事務局 及川 浩和 (S58建築)

近年の北海道支部の活動は、「役員会」および「総会」の開催、「大学と父母の連絡会」への参加のみになっています。

平成29年度は7月24日に役員会、8月25日に総会を開催しました。

総会には36名の方に出席いただきました。職場支部部会長の望月宏様 (S41 生産機械) からは、大学および校友会の近況のご報告、ならびに「校友会活動充実のための維持会費」のご案内をいただきました。現役時代に北海道に赴任されていたので、ご存じの方も多く楽しく交流されていました。上の先輩は飯塚亨様 (S35 土木)、金沢正勝様 (S37 建築)、白尾博彦様 (S39 土木) から、若手は川口真典様 (H4 経営)、滝本宏昭様 (H13 土木) まで、大変楽しい時間を過ごせました。新美砂会では、4名が出席されました。

会の締めは例年、卒業年度の一番若い方、数年続けて平成13年卒業の滝本さんをお願いしております。今年はずっと若い方が出席されることを願っています。

ご欠席の小関博利様 (S32 建築) から「柴野浩志様 (S56 電気、帯広の株式会社柴野電工社長) が、『ソーラパネル用架台、ソーラパネル用架台駆動装置及びプログラム』の発明により、平成29年6月16日に特許を取得された」とのご連絡をいただきました。太陽の方角に自動的にパネルを向ける追尾型の太陽光発電システムです。

◆宮城支部

会計 渡辺 憲市 (H1土木)

現在、宮城支部は以下の役員のもと活動を行っております。

支部長：村上啓二 (S48 土木)、幹事長：佐藤修 (S50 機械)、事務局長：峯岸雄一 (S51 土木)、会計：渡辺憲市 (H1 土木)

宮城支部の主な慣例行事は「新年会」「暑気払い」「忘年会」です。校友会・本部からの支援金制度が導入されてから、参加者数が増え始めました。会の活性化につながるこの制度が今後とも継続されることに期待しています。

9月初旬に仙台市内のホテルで「大学と保護者との連絡会」がありました。大学が仙台在住のご父兄へ日頃のお子さんの生活の様子などをお話する会です。私は校友会・宮城支部の代表として主に就職についてお話ししました。父兄からの質問も多くあり、「やって良かった」と感じました。本会を通してそれらの方々に東京都市大学のコマーシャルになればと思いました。

宮城支部としては会員相互の懇親を深めることをモットーとしています。宮城県在住のOB・OGの皆様！ぜひとも宮城支部の活動にご参加ください。この1～2年で初めて参加したという方も結構います！詳しくはホームページをご覧ください。



◆秋田支部

事務局 小松 俊光 (S60建築)

平成29年度秋田支部総会が、6月3日(土)に「秋田キャッスルホテル」において開催されました。

総会においては、平成28年度事業及び決算報告、年会費について、平成29年度事業(総会・懇親会、親睦ゴルフコンペ、統合記念親睦ビアパーティー、家族参加型新年親睦会の開催)とその予算について、承認をいただきました。また、副会長の松村慶一様より、校友会の活動内容や、全国の支部活動状況についての報告がありました。

懇親会では、幹事の田崎博美様より新美砂会の活動状況の報告があり、地方支部における統合の難しさを知ることができました。

また、同日に開催した親睦ゴルフコンペ(於:秋田カントリー倶楽部)の表彰式も行いました。

秋田での懇親会は、酒を酌み交わすことで、先輩の方々と親交を深めることができます。最後に「武蔵工業大学」「東横学園女子短期大学」の校歌をそれぞれの卒業生で歌い、「東京都市大学」の校歌は出席者全員で歌い、懇親会を閉会しました。2次会は秋田の繁華街の川反に移動し、鈴木眞澄氏(H6 機械)がオーナーの「ISOLA」にて行いました。



9月2日(土)には、統合記念親睦ビアパーティーを「秋田キャッスルホテル」にて行いました。参加者は10名(旧武蔵工業会6名、旧美砂会4名)でした。午後3時からの特別室での開催で、ゆったりとした雰囲気の中で楽しい時間を過ごすことができました。

毎年恒例の家族参加型の新年親睦会は年始めに行う予定となっており、平成28年度は1月28日(土)に和食「すがわら」にて19名の参加で行われました。子供と一緒に家族で2組、ご夫婦で2組、会員の参加は8名でした。1年ぶりに会う子供達の成長が見られ、家族ぐるみの交流が深まりました。

◆山形支部

副支部長 平 孝友 (S49電気)

山形県は鳥海山、月山、朝日連峰、飯豊連峰などの自然境界により、内陸地方と庄内地方に分断されています。

山形支部では、1988年4月創立以来年2回の行事、春に内陸で総会、秋に内陸と庄内を行ったり来たりでレクリエーションを行ってきました。

近年も2016年11月に庄内地方の酒田「料亭 香梅咲」で懇親会、2017年7月に内陸の山形市「ホテルメトロポリタン」で総会を開催しました。2014年に統合して以来、新美砂会の方々の積極的な運営参加により大変活性化しました。



今回の総会は、会に先立ち北海道・東北支部長会議を開催しました。懇親会では、山形、東北各地の銘酒と山形舞子でおもてなしを致しました。山形舞子さんを交え華やかな、和気藹々とした懇親会になり、そのまま二次会になだれ込みました。

山形支部のこれまでの活動については山形支部のホームページ (<http://musako-yamagata.org/>) に詳しく記録しています。

平成30年度も変わりなく支部総会と秋のレクリエーションを行う予定です。



◆福島支部

松本 昌宏 (H22都市基盤)

平成29年度の支部総会・懇親会は、平成29年6月3日(土)にいわき市湯本温泉「新つた」にて、大学から羽倉尚人助教(H17エネルギー基礎)を来賓としてお迎えし、支部会員33名と合わせて総勢36名が出席しました。

総会は、佐藤安宏支部長(S37土木)の挨拶から始まり、校友会の吉田勝会長の挨拶及び報告、議事と進められ、議事終了後、羽倉尚人助教から「TCU産学連携いわきサテライトセンター」について、いわき大王製紙(株)の白鳥秀樹専務から「い



わき大王製紙(株)」について、「新つた」の若松佐代子女将から「フラダンスのまち宣言で地域を元気に」についての活動報告をしていただきました。



翌日は、支部長杯ゴルフコンペが「サラブレッドカントリークラブ」にて開催され、11名が出席しました。優勝は佐藤幸一会員(S54土木)でした。

平成30年度の総会は、平成30年6月2日(土)に会津地区にて開催する予定です。

◆栃木支部

副幹事長兼会計 上野 拓也 (H7経営)

41回目を迎える支部総会・懇親会が平成29年7月15日にホテルマイステイズ宇都宮にて盛大にとりおこなわれ、26名の会員に参加を頂きました。組織を一体化して3年目を迎えましたが、今回は残念ながら新美砂会からの参加は頂けませんでした。

総会では、昨年度の活動ならびに決算報告、本年度の事業計画、予算について報告され、栃木支部執行部体制については、新支部長、新幹事の就任等について承認を頂きました。

長きにわたり栃木支部の発展に貢献されました関口行雄支部長(S44土木)に代わり、新たにご就任をされました塩田潔新支部長(S43建築)の下、新幹事長に本多美智男様(H2土木)、幹事として杉山伸之様(S58土木)、戸澤潤帆様(H7土木)をお迎えし、新たな船出を切ることができました。

総会議事に続き、ご来賓のご紹介、東京都市大学の近況ならびに校友会活動について、吉田会長よりご説明頂きました。

恒例事業となっている講演会では、鈴木大介様(H14エネ、株式会社バンテック専務取締役)より、『那須野が原の未来について』と題して、自身の会社の変遷や様々な事業へのチャレンジ、地域への貢献活動としての那須野が原の未来などについてご講演を頂きました。

懇親会では、斎藤治秀新監事(S57土木)による司会の下、塩田潔新支部長による就任ご挨拶、参加会員からの近況報告、更に土屋正美相談役(S41建築)からの余興等もありました。

総会以外の恒例事業として、栃木支部親睦ゴルフ会を5月6日に千成ゴルフクラブにて開催致しました。天候にも恵まれ、和気あいあいの雰囲気の中でプレーを楽しむことができました。今後とも継続的に親睦ゴルフ事業を実施予定ですので、今回ご参加頂けなかった方々にも奮って参加を頂き、栃木支部の恒例懇親事業として定着化したいと思います。



地方支部だより

◆茨城支部

支部長 須藤 賢一 (S49土木)

支部総会・懇親会を11月18日(土)に「水戸三の丸ホテル」において開催しました。関東・甲信越地区支部長会議とのセット開催で来賓9名を含め50名の参加となり、にぎやかに行われ、また思い出が残るようにと初めてビンゴ大会も実施しました。二次会にも23名の参加となり楽しい意見交換が行われました。懇親会の最後には、熊倉豊彦(S45電気院)副支部長のハーモニカで、東京都市大学、東横学園女子短期大学、武蔵工業大学の校歌斉唱となりましたが、東横学園女子短期大学の参加者は2名で次回の参加者増が期待されます。茨城支部総会は隔年となりますが、幹事会は低廉な食堂で年4回程度実施しております。どなたの参加も歓迎します。HPで開催日等はお知らせします。ぜひご参加ください。



◆埼玉支部

支部長 坂本 芳博 (S49通信)

平成29年度総会・懇親会を9月9日(土)17時より大宮駅西口の「東天紅 JACK 大宮店」にて開催致しました。平成28年度は諸般の事情で開催できず一年越しの開催となりました。

総会・懇親会には、学長代理として大谷眞一教授(S51機械)、群馬より加治屋勉様(S45機械)のご来賓に出席を頂き、総勢36名の盛大な会となりました。

総会では①平成27・28年度事業報告・会計報告 ②平成29年度事業計画・予算計画 ③役員改選が審議・承認されました。支部長を岩間義人様(S40土木)から坂本芳博へ代わることになりました。また、新美砂会から山口恵理子様(S50家政)、内田久子様(S53家政)に支部幹事に就いて戴きました。

前支部長の岩間義人様には、校友会埼玉支部の発足にご尽力頂きましたことに改めて感謝いたします。

懇親会に移り、原口副会長に校友会の取組み、大谷学長代理には大学の現状を交えてご挨拶を頂いた後、副島信治支部相談役(S32通信)の乾杯にて宴となりました。

懇親会冒頭の挨拶で原口副会長より「維持会費のお願い」があり、4万円超が集まりました。支部委員長でもある松村副会長より支部支援活動や他支部の活動状況を、大谷先生からは少子化による大学の受験者問題や就職状況のお話を戴きました。支部会員からは大学のPRや就職活動に対して活発な意見が出されました。

昭和24年卒業の大先輩から平成27年卒業の若手会員までの幅広いの参加、新美砂会員の参加、現都市大後援会長佐々木勝久さんの参加もあり和気藹々とした雰囲気の中で各来賓の挨拶や新会員の自己紹介ありで、楽しい懇談のひと時を過ごし、最後は荻原三七夫相談役(S24土木)の手締めでの閉会となりました。

平成30年度の総会・懇親会は平成30年9月8日(第2週土曜日)の開催を予定しております。



◆千葉支部

幹事 菅澤 浩之 (S54土木)

武蔵工業会千葉支部から数えれば60回目、また、校友会としては3回目の支部総会が、大学から皆川勝先生(大学院工学研究科長、S54土木)をお招きして平成29年7月1日(土)、千葉市スカイウィング東天紅にて開催されました。各議案は全会員の賛成をもって可決され、その後懇親会へと移行しました。

皆川先生からは、東京都市大学オーストラリアプログラム(TAP)による、グローバル人材育成プランなどのお話がありました。また、吉田会長からは、武葉会(千葉県庁職場支部)新支部長北岡聡様(S62院・土木)に対して委嘱状の授与がありました。

三浦弘氏(S32機械)のご発声により乾杯を行い、続いて今回初めて参加された皆さんの自己紹介とスピーチ等があり、和やかな歓談のうちに時間が流れ、恒例の校歌合唱後、中村春雄氏(S33建築)による中締めで、一次会はお開きとなりました。司会進行の高柳昌司さん(H2土木)はじめ他役員の皆さん、本当にご苦勞様でした。

千葉支部では平成28年1月27日、坂巻玲子氏(H7英文)



に講師をお願いし、「こころの免疫」と題する講習会を開催するなど、独自の活動にも力を注いでおります。今後も活発な活動を続けて参りたいと思います。



支部講習会

◆横浜支部

支部長 平川 完 (S44電気)

横浜支部長に就任してから3年目、平成29年度は色々な行事を予定した年でも有ります。神奈川県内3支部(横浜・川崎・湘南)の総会と懇親会時には落語家の柳家小ゑん師匠に一席話をして貰い、春には今限りで衆議院議員を辞める大畠議員の

お話と国会議事堂見学を実施し、秋には日本最大の客船飛鳥IIの見学会を開催したりして、皆様と共に楽しんで皆とも仲良く出来る支部を目指しています。(詳細は横浜支部のホームページ等をご覧ください。)

神奈川県内には住所判明者だけでも2万人の会員がいて、日本一の会員数を数えます。そのため神奈川県支部では無く、横浜支部・川崎支部・その他の神奈川県内の湘南支部となっています。今後もこの形は暫く続くと思われますが、9月末又は10月初めに予定している支部総会と懇親会は3支部合同で今後も続けて行きたいと思っておりますので、是非支部総会及び懇親会に出席して下さい。その他の行事も続けて行く予定ですので、(支部行事には支部より一部補助しています)支部のホームページなどをご覧になり積極的に参加して頂きたいと思っております。

◆川崎支部

支部長 赤津 武雄 (S40電気)

2017年9月30日(土)に、平成29年度校友会神奈川県支部(横浜・川崎・湘南)を横浜キャンパスで開催し、滞りなく終了いたしました。

吉崎副学長による学校説明会では、家族・子供・孫迄が母校で学べる様なシステムの構築を進め、英国のケンブリッジやオックスフォード、米国のアイビーリーグの様に母校を誇りに思うことを願っていました。



講演会では本校OBである柳家小ゑん師匠(電気通信工学科)による落語も盛況でした。世田谷・横浜・等々力キャンパスや町内会への案内の配布広報により、町内会からも9名の方がお見えになり、大

声で笑っていたのが印象に残ります。

落語の高座設定は難しく、演者の視線に合わせた高座の高さ、観客との距離、話者の音声の通り具合、金屏風の長さ、出囃子のタイミング等、実際に設営しなければ判らないことがかなり多くあり、貴重な経験になりました。

今回、初めての主催支部となり、これ迄の時系列での履歴が殆ど無い為、一から手探りで積上げとなりましたが、川崎支部の基本方針である「全員が主役」により、全役員が全体の流れを理解して、責任感を持って今回のプロジェクトを完遂しました。(「総会迄の全体スケジュール表」、「総会・講演会・懇親会当日のスケジュール表(分刻み)」を全員参加で練り上げ、実行しました。)

お互いが率先して助け合うのが、川崎支部の伝統です。



◆湘南支部

副支部長 露木 博視 (S55建築)

■平成30年度役員構成

支部長：大屋廣茂 (S46 機械)，副支部長：海老沼利光 (S49 経営) 露木博視 (S55 建築)，幹事長：山根公高 (S46 機械)，会計幹事長：山田真久 (S44 機械)，監事：草部容堂 (S40 機械) 菅原 健 (S56 電気)，幹事：江藤和安 (S46 経営) 松長泰幸 (H04 土木) 中富康彦 (H07 機械)，顧問：細野泰彦 (S51 経営)

■今後の活動内容の提案

1. 湘南支部主催のセミナー実施 「二子夢キャンパス」にて、湘南支部主催(横浜、川崎支部協賛)の公開講演会を年に3回程度開催する。
 - ①「水素エネルギー展望」について語る：山根公高 (S46 機械)
 - ②「都市トンネルの火災と避難」：山田真久 (S44 機械)
 - ③ 藤沢地域の地域貢献活動について：松長泰幸 (H04 土木)
2. 「2018年度神奈川3支部合同総会・懇親会」の実施
湘南支部が幹事支部として企画・運営を行う。(9月下旬又は10月初旬開催予定)
3. 学生支援活動 ①学生との討論会実施 テーマに関する話題提供を卒業生より行い、それについて学生と自由討論する。学生からもテーマを募集する。場所は、学生が容易に参加できるキャンパス内、校友会館自由が丘クラブ
- ②エビ会の実施 現在、「エビ会」を平成28年4月より実施している。経営システム工学科3年生12～15名を対象に、座学、演習と工場見学、就職支援を行う。
- ③就職支援活動 「企業の選び方・調査方法、企業評価を知る」を中心とした学生対象の講習会の実施。
- ④工場見学会の実施 参加学生の募集・見学先依頼・実施
4. 地域貢献活動
 - ①湘南地区の中高等学校への都市大の紹介
 - ②鎌倉高校と湘南支部合同の「講演会」実施
 - ③「松長さんを送り出す」後方支援活動
5. 外への情報発信 (HPの運用)
既存のHPに加えて、Facebookページの活用
6. 校友会名簿管理システム「都市大校友オンライン」の積極的活用



◆新潟支部

支部長 日野浦 広昭 (S48土木)

平成29年10月14日(土)に、吉田育子副支部長(家政S35)が学校長を務める新潟調理師専門学校で第54回新潟県支部総会が35名(うち女性会員5名)の出席で開催されました。支部長挨拶、来賓の紹介の後、事業〔一般会務、大学と保護者との連絡会、その他〕報告、会計報告、監査報告、そして新規幹事3名の就任が承認されました。また、平成30年は支部創立55年となるため大学より講師を派遣していただき、一般にも参加を呼びかけて大学のPRも兼ねた講演会を企画する方針を了承いただきました。

地方支部だより

議事終了後、松村副会長より、大学と校友会の近況等をプロジェクトで説明いただきました。山本忠雄副支部長(S35 建築)の閉会の言葉の後、写真撮影を行いました。

懇親会が、吉田副支部長の開会の挨拶、続いて初参加の方の自己紹介そして市川務さん(S33 通信)の乾杯で始まりました。新潟調理師専門学校教授陣が腕によりをかけた超豪華料理を堪能しました。調理師専門学校の学生さんの素晴らしいサービスを受け、北京ダックやローストポークは目の前で切り分けて頂いて目でも楽しませていただきました。ビール、ワイン、新潟の銘酒をいただきながら会話も弾み、来年の料理のリクエストなども出て楽しい時間を過ごしました。

例年通り青木征彦副支部長(S38 電気)の指導で東京都市大学、東横学園女子短期大学、武蔵工業大学の校歌を全員で合唱し、平石俊夫さん(S44 土木)の閉会の言葉そして手締めでお開きとなりました。その後多くの方が二次会に新潟の夜の街(古町)へ繰り出していきました。

新潟駅での出迎え、タクシーの手配など、お手伝いいただいた支部役員、会員の皆様に感謝申し上げます。



総会集合写真(皆さん元気にニコリ)



総会の様子(会場は教室に設営しました。)



懇親会(美味しい料理で、和気あいあいと)

◆長野支部

支部長 高橋 重徳(S45建築)

平成29年度(16+3期)長野支部総会は、平成29年6月3日(土)午後2時30分より、ホテルモンターニュ松本にて開催されました。来賓の東京都市大学塩尻高等学校事務長 小澤章裕様のご臨席賜り、支部会員35名の参加をいただきました。

総会では、役員改選と新事業の承認を頂き、3期目をスタートしました。引き続いての講演会では、堀内則量先生(S41 電気)より、『鉄腕アトムか?バベルの塔か?核エネルギー四方山話』



総会

と題してご講演頂きました。

【総会承認事項】

役員改選: 理事退任2名、新任2名、顧問退任1名 承認
新規事業:

- ①長野支部会員企業訪問 平成29年度はセイコーエプソン(株)訪問
- ②塩尻高等学校 柏祭へ高校同窓会と合同で、大学の紹介、両会会員企業の紹介ブースの開設
- ③世田谷・等々力キャンパスホームカミングデーに合わせての母校訪問の実施



セイコーエプソン(株)訪問



塩尻高等学校柏祭への参加

◆富山支部

幹事長 深松 隆(S59土木)

富山支部は、2014年10月に設立総会を開催し今年で4年目を迎えました。平成29年度総会は、7月15日に富山県民会館で開催し、26名の方にご出席頂きました。本部から最近の大学の話題、校友会全体のお話などを聴かせていただきました。昨年支部を立ち上げた石川支部から高屋利行支部長(S52 建築)にもご出席いただきました。鹿熊裕二富山支部長(S56 経営)の乾杯で始まった懇親会では、恒例となっている近況報告を兼ねた3分間スピーチを行いました。今回はビジネスの話題が多かったように思います。金山宏明監事(S58 機械)の閉会の挨拶をもって、盛会に終わりました。

本年も7月下旬の土曜日の開催を予定しております。



富山県では歴史ある「東京理工6大学OBゴルフ大会」が開催され本学OBからは10名が参加しました。他5大学は、東京工業大学、東京理科大学、芝浦工業大学、東京電機大学、工学院大学で、総勢70名が参加しました。本年は第30回記念大会となり6月3日(日)に開催される予定です。富山支部の西田真一副支部長(S57 経営)が本大会の代表幹事を務めております。例年県外からも多くのOBが参加されています。本学の名誉にかけて本年は優勝すべく多数の参加を募りたいと思っております。



◆静岡支部

支部長 千野 慎一郎(S41建築)

平成29年度の静岡支部総会は、9月16日(土)14:30~15:00 沼津駅北口の総合コンベンション施設・プラサヴェルデ

の会議室にて 38 名の会員、他支部からの参加 2 名、ご来賓 5 名をお迎えして開催しました。記念講演会（15:30～16:40）には、人間科学部教授の早坂信哉先生をお迎えして、校友会総会でもお話いただいた「お風呂・温泉使った健康づくり」をテーマにご講演いただきました。講演会は、前年に続き一般公開をしましたが約 70 名の市民に聴講いただきました。その後、懇親会（17:00～19:00）には 40 名が参加し、楽しく交友を深めることができました。



◆東海支部

支部長 秦 俊道 (S45機械)

7月8日（土）の総会では、大学から機械工学科の三原雄司教授（H1 機械）を来賓としてお迎えし「東京都市大学における産官学連携のエンジン研究」についてご講演を頂いた。教授から直に教えを受けた多くの卒業生達は、学生時代にタイムスリップしたかの如く熱心に聞き入っていた。更に、大学がグローバル人材の育成を積極的に展開しているのも印象的であった。総会終了後の懇親会は、山本孟資氏（S37 土木）と坂元美絵子さん（S39 家政）のコンビによる乾杯でスタートした。今回は平成 24 年以降の卒業生が 15 名も参加してくれたので、例年になくフレッシュな雰囲気の中、和気あいあいと楽しい宴が続き、最後は万歳三唱して閉会した。

平成 30 年は東海支部設立 30 周年にあたる故に、“設立 30 周年記念総会”開催をメインに、例年の如くタイムリーに役員会を開いて、ゴルフコンペ、忘年会（or 新年会）、会社見学会等を計画し実施して行く予定である。



◆京滋支部

支部長 廣原 美照 (S51経営)

平成 29 年は例年通り 1 月 21 日の新年会 14 名で幕を開けました。

4 月 30 日には、琵琶湖湖畔で会員家族や近隣支部にも呼掛け、バーベキューパーティーを開催いたしました。前年同様好天に恵まれ兵庫支部から 5 名、和歌山支部から奥様同伴の 2 名でお越しいたき、5 名の方々が奥様同伴、



内 2 名は幼児含む家族同伴のうれしい参加で合計 30 名 + 幼児 3 名 + 愛犬 1 匹の盛況で大いに親交を深めあいました。好評につき毎年同時期恒例開催の予定です。

総会は 5 月 27 日琵琶湖ホテルにて京滋支部会員 22 名、本部及び関西地区各支部より合計 8 名、新美砂会の女性陣 5 名を含む総勢 30 名で盛会のうちに執り行いました。

7 月 8 日には京滋支部のウォーキング同好会の企画を兼ねた兵庫支部とのコラボバスツアーに参加致しました。京滋支部 11 名、兵庫支部 27 名、大阪奈良支部 1 名の盛況で兵庫支部より京滋支部までお越しいたき、京都滋賀の名所を回りました。

同じく同好会のゴルフ会では春の湖都会 4 月 8 日 12 名、秋の古都会 11 月 11 日 11 名で、本年も滋賀と京都で通算 10 回の恒例開催を数えております。



最近是新美砂会含む女性会員や若手諸氏の参加も多く、先輩後輩間も打ち解けあい、和やかな良い関係が出来上がりつつあります。

次回総会は平成 30 年 5 月 26 日琵琶湖ホテルで昼間時間帯の開催予定しております。

平成 30 年度も前年度をおおむね踏襲する予定しております。

◆大阪奈良支部

支部長 鈴木 敬 (S47機械)

平成 21 年大学統合による学部改編・校名変更に伴い武蔵工業会近畿支部も平成 23 年より各県単位（兵庫 京滋 大阪奈良 和歌山）の 4 支部に順次再編されることになりました。

近畿支部は昭和 42 年に溝口政夫支部長（S7 建築）が就任され、当時の山田学長をお迎えして発足し、以来平成 26 年第 46 回まで大学 武蔵工業会 諸先輩方のご尽力により毎年開催され、各科の垣根を超え、大学への協力 卒業生の相互交流を通じて近畿支部の振興を推進されてきました。改めて敬意を表したいと思います。

地方支部だより

大阪奈良支部総会は平成 29 年 10 月 14 日（土）に第 4 回を開催しました。折角なのでまる 1 日楽しく交流を図ってもらおうと前半行事、後半総会と 2 部構成で行っています。

今回、行事として、「落語家と行くなにわ探検クルーズ」を 26 名参加で実施いたしました。大阪市内には 33 河川、総延長 146 km もあり、今回は大阪市内の中心部を流れる川巡りを落語家 桂三ノ助さんの軽妙な笑いあいの案内で大阪の街を川から眺めて普段とは違う大阪ならではの見どころを探訪しました。ご夫婦、子供同伴も含めて 4 組も来ていただいて、楽しんでいただいたことをうれしく思っています。

後半の総会は美砂会から 4 名の参加もあり総勢 26 名で開催され、何時もながらのワイワイガヤガヤで賑やかな会となりました。

本年も 10 月頃、行事、総会を開催しますので参加をお待ちしています。



◆兵庫支部

支部長 平井 景三 (S46通信)

平成 29 年 11 月 12 日（日）神戸三宮東急 REI ホテルにて平成 29 年度兵庫支部総会が、大阪奈良支部、京滋支部からもご出席頂き、総勢 26 名のご出席の下、盛大に開催されました。兵庫支部恒例の記念講演は元オリックスバファローズ投手の吉川勝成氏に、「野球を通じての絆」と題して講演を頂きました。総会は、活動実績、事業計画、会計報告と出席者の承認を得て無事終了し、宮本博司様 (S33 建築) の乾杯で懇親会がスタート。抽選会など楽しいアトラクションで大いに盛り上がりました。宴は 2 次会、3 次会と神戸の街を満喫し、来年度の支部活動の更なる活力を蓄えることが出来ました。

平成 30 年度の役員体制が次の通り決定しました。支部長：平井景三 (S46 通信)、副支部長：上野招子 (S53 家政)、会計担当：大畑武之 (S42 機械)、事務局長：荒井良祐 (S51 機械)、幹事：南保光 (S37 建築)、奥哲夫 (S45 土木)、岩崎晴海 (S59 英文)、塚平タ美 (S62 英文)、顧問：田中浩作 (S39 土木)
○主な活動実績をご紹介します。

<ゴルフコンペ開催>

・平成 29 年 5 月 19 日（金）、平成 29 年 9 月 1 日（金）、2 回、愛宕原ゴルフクラブで総勢 22 名参加の下、開催されました。

<京滋支部共催日帰りバスツアー>

・平成 29 年 7 月 8 日（土）39 名参加、伏見稲荷大社、平等院鳳凰堂、寿長生（すない）の郷、等を巡る。

<京滋支部主催の BBQ 大会に参加>

・平成 29 年 4 月 30 日（日）琵琶湖サンシャインビーチにて兵庫支部より 5 名、総勢 30 名参加で和やかに開催されました。

◆岡山支部

幹事 山本 紘之 (H14土木)

平成 29 年 10 月 21 日、平成 29 年度の岡山支部総会をメルパルク岡山にて開催しました。

広島支部の山田正一支部長 (S44 土木)、鳥取支部の藤谷治男支部長 (S43 建築)、港紀一郎副支部長 (S43 生産機械)、島根支部の今崎一治支部長 (S43 経営) の方々が各地より応援に駆けつけて下さいました。

総会に参加された方との話の中で、東京都市大学の知名度についての話題がありました。知名度向上については、我々 OB に負うところも多くあると感じています。OB として、東京都市大学を世の中にどう発信していけるか、もう少し真剣に、具体的に考えて行かなければいけないのかも知れません。

岡山支部総会は、10 月の第 2 土曜日の開催を基本としていますので、平成 30 年度は 10 月 13 日（土）開催の予定です（変更等ありましたらお知らせいたします）。総会へ参加いただければ大変ありがたいですが、まずは、総会案内の返信欄へのメッセージだけでも結構ですので、少しでも支部活動に関わって頂けますと助かります。



◆広島支部

支部長 山田 正一 (S44土木)

広島支部は、昭和 56 年の春に第 1 回の総会・懇親会を開催し、秋には懇親会を毎年開催しています。

平成 29 年の懇親会は、11 月 11 日（土）にセンチュリーホテル 21 広島で、支部委員会・職場支部部会長 望月宏 (S41 生産機械) 様をお迎えして 18 時より開催しました。

参加者は来賓を含め14名でした。支部長の挨拶、来賓の祝辞、懇親・雑談・思い出話等々和やかな会となりました。締めくくりに「武蔵工業大学校歌」を斉唱し懇親会をお開きとしました。



◆山口支部

萩原 厚子 (S53家政)

入学式の時に学長が述べられたお言葉を今でも鮮明に覚えています。「勉強はもとより、この二年間で一生涯付き合える友を三人作りなさい」という話でした。「え？なんで三人？」当時はそう思っていました。三人寄れば文殊の知恵、御三家、三本の矢、石の上にも三年、三日坊主（笑）。三は調和、安定の心地よい数字だからかな。気がつけば毎年私を含め、四人で旅行に行っています。「母校愛」が継ぐ生涯の友ですね。



さて、本題に入りましょう。

平成29年度は山口支部65周年記念という節目でプーチン大統領をお招きした長門の大谷山荘にて一泊し、蛸狩りにも出かけました。諸先輩方の学生当時の話など、時間の経つのも忘れ、笑い語り、有意義な時間を過ごしました。

次回5月支部総会には、「美砂会」の皆様の参加、心よりお待ちしております。



◆鳥取支部

支部長 藤谷 治男 (S43建築)

7月1日（土）、鳥取市駅前、鳥取ワシントンプラザホテルで第3回目の支部総会を中国・四国地区代表 広島支部長の山田正一様（S44 土木）、岡山支部長の福島祐紀洋様（S43 土木）、島根支部の佐藤公紀様（S50 機械）、如学会の露木博視様（S55 建築）との計20名の参加があり、初参加の方も4名あり、会は盛り上がった。

松村副会長から歴代の校章、学長、校舎の変遷の説明があり、露木様から校友会の維持会費納入のお願いがあった。支部費と勘違いされた方があった。露木様からは大学での就職ガイダンスのお話もあった。懇親会では自己紹介があり、和気あいあいであった。

第1回中・四国親善ゴルフ大会を10月23、24日前夜祭、翌日大山大でゴルフ実施、中・四国との親交にとっても役立ったと考えます。参加者は15名でした。第2回は四国の愛媛で開催の予定です。

平成30年度は7月7日（土）、米子市の皆生シーサイドホテルで支部総会を開催の予定です。その際、母校学生支援部部長住田暁弘氏（鳥取県出身）の講演を予定しています。又、平成30年5月19日（土）の校友会定期総会の頃、新生の東京都市大学を見学にツアーの参加者を募集中です。



平成29年度、支部総会終了時全体写真



懇親会の様子



第1回中・四国親善ゴルフ大会

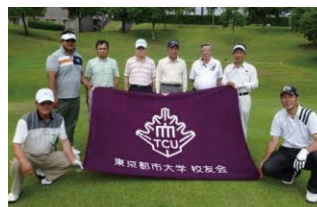
◆徳島支部

幹事 松尾 秀己 (H9土木)

平成29年6月8日に支部総会及び懇親会が行われました。

昼の部として、徳島県の「クラシックゴルフクラブ」でプレーを行いました。本部校友会からは岡田前徳島支部長と同期で幹事支部委員の望月宏様（S41 生産機械）に出席いただきました。引き続き、夜の総会及び懇親会を行いました。

尚、12月にも総会及び懇親会を行う予定です。



◆愛媛支部

支部長 住田 樹保 (S49機械)

愛媛支部総会は5月27日（土）松山市の伊予鉄会館にて、オブザーバーとして中四国の支部長4名のご参加をいただき、総勢22名で開催しました。

9月30日（土）には、『秋の親睦会・オータムランチパーティー』を道後山の手ホテルにて開催し、フレンチのフルコース

地方支部だより

スを楽しみ懇親を深めました。旧東横学園女子短大の8名、旧武蔵工大の8名の計16名の参加をいただきました。平成29年度の活動テーマである女性会員の参加増進をある程度達成したのではないかと。さらに次年度もより多くの女性会員が参加できる企画をしてみます。



◆福岡支部

支部長 川崎 善嗣 (S53電気)

平成29年度福岡支部総会は10月20日福岡一の繁華街天神中央の居酒屋で開かれました。

当日は若い方・初めての方・来賓の九州・沖縄地区代表 横山敬司様 (S54 経営) も含めて総勢31名の参加が有りました。

会は一人ひとりのユーモアを含めた自己紹介を始め、九州朝倉市東峰村復興支援を兼ねた当地物産の景品でのビンゴゲーム、最後に武蔵工業大学・東横学園女子短期大学・東京都市大学の校歌を歌って大いに盛り上げました。

福岡支部では今後も若手からお年寄りもが参加出来るようなイベントも考えて、大学創立90年、100年祭に向かって会を盛上げて行きたいと思っています。



◆長崎支部・佐賀支部

佐賀支部 事務局 森 孝信 (S56機械)

長崎支部

昨年の鹿児島支部総会参加に続いて、今年は平成29年10月

29日(日)に交流も兼ねて長崎支部総会・懇親会に横山敬司支部長 (S54 経営) と共に参加しました。来賓として前九州・沖縄地区代表東求 (S46 土木) 様も参加され、総勢7名で、今後の支部活動の在り方など長崎料理を戴きながら盃を酌み交わしました。



長崎支部総会

佐賀支部

平成29年11月4日(土)に九州・沖縄地区支部長会議と佐賀支部総会・懇親会を唐津市のからつ温泉「綿屋」で開催しました。

16時からの九州・沖縄地区支部長会議では、まず地区代表が東熊本支部長から横山佐賀支部長へ交代になりました。会議の中では、支部活動の活性化のためにも他の支部からの参加を呼びかけたらどうかという意見や、各支部名の入った専用の校友会旗を作成してほしいという意見が出ました。

18時から佐賀支部総会を開催、熊本支部長東求様、福岡支部長木原実 (S47 土木) 様、長崎支部長代理中川徹 (S39 通信) 様、大分副支部長の原誠 (S51 土木) 様、宮崎支部長福永保 (S47 土木) 様、福岡支部鐘川邦次朗 (S45 経営) 様に御出席いただき、支部メンバー7名プラスαの総勢17名でにぎやかに執り行われました。例によって佐賀県の条例に則り地元の日本酒での乾杯で始まり、唐津のくんち料理をご堪能いただきました。平成28年の佐賀支部総会で、「来年の支部総会はぜひ唐津くんちを見たい」と言われておりましたので、皆様から喜んでいただき幹事冥利に尽きました。

翌11月5日(日)は、福岡支部からの助っ人もお願いして、総勢12名、歴史ある唐津ゴルフ倶楽部で、天気も良く、皆さん楽しくプレイできたようでした。



佐賀支部総会



唐津ゴルフ倶楽部にてスタート前の笑顔です。

◆大分支部

支部長 安部 實 (S40通信)

◎ボウリング大会



ゲーム開始! 気もそぞろに集合写真



格好いいけれど・・・(ストライク?) 佐藤氏
わたしも投げるわよ!
歳にもめげずに 賀米真一氏 (S45土木)

平成 29 年 11 月 11 日午後 1 時 30 分～3 時 30 分。

佐藤匡輝（H13 機械）氏と夫人および娘さん（小 1 年）、その他支部会員 4 名の合計 7 名参加。家族グループと会員 4 名グループの 2 レーンでゲームを行った。

◎平成 29 年度総会・懇親会

〔総会〕 大分支部会員参加者 13 名。支部長挨拶、平成 28 年度決算承認、年間行事（新年会、会員へ大分支部報告配布、総会・懇親会）の承認。

〔懇親会〕 来賓として九州沖縄地区代表の横山敬司（S54 経営）佐賀支部長をお招きし、大分支部会員 13 名 + 付き添い夫人 1 名の合計 17 名の参加。支部会計監査の大塚裕治氏（S49 経営）は家の玄関で転倒による大怪我をしたけれど夫人付き添いの車椅子で参加。本部からの海老沼利光常任幹事（S49 経営）との卒業後 42 年ぶりの再会を心待ちにしていた。

3 つの校歌をバックグラウンドに、和やかに歓談。宴もたけなわのなか、参加者の絆を深めようと、ドイツ学生歌「乾杯」を安部支部長のフルート演奏に田原豊久（S45 通信）氏の歌声に合わせて乾杯。歓談の後、大塚氏を囲んで校歌斉唱、児島靖正（H9 機械）支部幹事長による「万歳」三唱で終了。来年の再会を期して散会。



和やかに集合写真

◆熊本支部

支部長 東 求（S46土木）

平成 29 年度の統合後第 4 回熊本支部総会を平成 29 年 9 月 16 日に熊本城を仰ぎ観る KKR ホテルで開催しました。

当日は横山敬司九州・沖縄地区代表（S54 経営）などをお迎えし、総勢 20 名で青春時代に帰り、楽しいひとときを過ごしました。熊本地震からの「復旧・復興」に向けてお互い元気で頑張っていきましょうを合言葉に散会いたしました。



◆宮崎支部

支部長 福永 保（S47土木）

11 月 18 日土曜日、ここ宮崎観光ホテルにあるレストラン「はな花」において支部会員 20 名と吉崎副学長他 6 名のご来賓によって支部総会、吉崎先生の講演、懇親会が約 3 時間に渡って行われました。とりわけ吉崎先生の講演テーマ「現在の大学の状況」は大きなスクリーンに映し出されたキャンパスの昔と今の変わりように驚きや懐かしさに溢れていました。TAP の制度などアクションプラン 2030 を聞いて現有名大学と肩を並べる日が必ずやってくると強い確信をもつことができたなど先生の楽しく嬉しくなるような講義に拍手が長いあいだ続きました。懇親会では各自の自己紹介があり、近況報告や学生時代の思い出話、「武蔵工大の学生と付き合っていました」と東横学園女



子短大の卒業生が語ってくれました。昼間のランチタイムの時間もあっという間に過ぎて、帰り際に破顔に満ちた顔で来年もよろしくと言いながら散会しました。



◆沖縄支部

幹事 太田 勲（S60経営）

平成 29 年 10 月 21 日（土）に平成 29 年度の支部総会・懇親



会を那覇市のホテルロイヤルオリオンにて開催しました。衆議院選挙の前日、台風 21 号が接近という厳しい条件の中、総勢 17 人の参加がありました。特に台風で飛行機が一部欠航する中、来賓の方には運良く全員が参加でき、一安心でした。武蔵工業会と美砂会の統合後の支部総会の開催は 2 回目です。まだまだ参加者が少なく、今後いかに増やすかが課題です。



職場支部だより

◆学内支部

支部長 皆川 勝 (S54土木)

武蔵工業大学・東横学園女子短期大学が統合されて、大学名称が東京都市大学に変更され、武蔵工業会から校友会となって以来懸案となっていた、学内支部の体制がやっと固まり、再発足の総会を7月21日(金)に学内のラウンジオークで開催しました。21名の会員が参加し、にぎやかな会となりました。新しい体制は、皆川勝支部長、大塚年久副支部長(S53機械)、黒木留見子副支部長(S55国文)のほか8名の幹事、77名の会員により構成されることとなりました。新規約では、校友会と大学の相互の連携を推進する活動と会員相互の親睦を目的とした活動をそれぞれ教員である副支部長と事務職員である副支部長が担当し、当面は会費を徴収せずにスタートすることとなりました。また、特に支部会員が校友会の総会などの事業運営に協力する場合、参加費等の一部を支援することができるものと規定しました。校友会は東京都市大学、武蔵工業大学、東横学園女子短期大学の卒業生から構成されていることから、学内支部も、現在母校に職を得ている校友会会員から構成することになった結果、教員と事務職員を包含した会となります。このことは、支部の今後の役割を考えるうえで大きな変化となります。教職員は、大学に雇用者として貢献することが求められる一方、校友会会員・学内支部会員として関わってゆくことになります。責務や利害が相反する立場となることもないとは言えませんが、母校と校友会は車の両輪ですので、知恵を出し合って、母校並びに校友会の発展に貢献をしてゆきたいと思います。皆様のご指導をお願いいたします。



◆川崎市役所支部

濱田 亮 (H24都市工)

川崎市役所支部の会員数は現在83名であり、平成28年度は、平成29年1月に川崎市内のホテル精養軒で総会が開催されました。総会には勝又英明主任教授(S55建築)、丸山収主任教授(S58土木)にご出席いただきました。川崎市役所のOBの結束をとて強く感じ、その一員であることに誇らしい気持ちになりました。平成29年度も平成30年2月に総会の開催を予定しております。

川崎市役所に入庁してから6年が経ちました。入庁後、上下水道局水道部設計課に配属となり、高度成長期に布設された配水管の更新工事の設計積算業務を担当していました。上下水道局職員のみならず他局の職員と調整をする機会が多く、その際には東京都市大学OBに様々な面で助けて頂きました。平成28年度より施設整備課に異動となり、水道施設整備工事の設計・工事監督業務を行っております。業務の中に長沢浄水場内施設の工事監督業務があり、市民の安全な水道の利用に直結しているため、やりがいを感じながら業務を行っております。

川崎市役所支部の活動においては、卒業予定者を対象とした

企業説明会に参加しています。直接職員と交流することにより、学生が川崎市の職場への理解と業務への興味を持ってもらえる良い機会だと思います。私と年齢が近い学生の参考になればと思います。正直に様々な話をしています。

今後も支部総会や年間行事に参加し、仕事をしていくことで改めて諸先輩方が築き上げてきたモノの重みを感じ、その仲間であると感じながら後輩たちにも誇れるように仕事に臨みたいと思います。



◆飛島柏会支部

小林 剛 (H28都市工)

去る11月17日(金)、平成29年度飛島柏会総会・懇親会を東京国際フォーラムG棟内レストラン「東天紅」にて開催しました。当支部は、現役会員25名、OB会員53名の総勢78名の組織となっています。

開催当日は、東京都市大学都市工学科より吉川弘道先生、建築学科より勝又英明先生(S55建築)をご来賓としてお迎えし、総勢28名が集結しました。

荒尾拓司支部長(S58建築)の開会挨拶から始まり、ご来賓の紹介、乾杯のご発声で会がスタートしました。ご来賓の皆様にご挨拶をいただき、お食事とお酒が進む中、会員一人一人がステージに上がり、仕事の話に限らず、プライベートのことなど、毎年恒例の近況報告を行いました。

今後も、進路相談会や企業研究会への参加、現場見学会等の開催を通じて、後輩である在学生に向け、建設業界やゼネコン、そして、飛島建設の魅力を伝える活動を行っていきます。また、飛島柏会支部から広がるつながりを大切に、ベテランから若手まで一致団結して、支部活動を盛り上げていきたいと思っています。



◆鹿島柏会支部

事務局 藤本 健 (H10電気)

平成29年4月13日(木)に支部総会を鹿島建設本社にて行いました。校友会、大学からもご来場いただき、会員同士の親睦を深めました。毎年、新入会員(新入社員)の歓迎会も兼ねており、平成29年度は、6名の新規会員を迎えることができました。

鹿島柏会支部では、学生の就職支援として、毎年、大学他関係各位の協力を得て、業界説明会を実施しています。平成29年度（平成31年3月卒業学生向け）も、平成29年11月から12月にかけて実施します。建設業界の魅力、実情を現役学生にご紹介し、現役学生の役に立つ情報発信を心がけています。



◆京三柏会支部

前幹事 井上 賢亮（H16電気）

平成29年度は5月19日に川崎の萬福大飯店にて支部総会を開催しました。例年、新入社員の歓迎会を兼ねており、本年は新たに2名を加え、正会員・OB会員を含めて36名が出席しました。年に一度ではありますが、正会員やOB会員の重要な情報交換の場にもなっています。新入社員の自己紹介コーナーをはじめ、アットホームな雰囲気で大盛況となりました。来年も我等が母校よりフレッシュな新入社員を迎えたいと会員一同願っております。



◆五洋柏会支部

幹事 谷口 修（H8土木）

五洋柏会（支部長：松尾史朗、S57土木）は、五洋建設株式会社に所属する社員を対象とした職場支部です。会員は平成29年度現在36名で、国内各地はもとよりミャンマー、香港、シンガポールの海外にも在籍し活躍されています。また、平成30年4月からは、新入社員3名が加わる予定です。

平成30年1月26日に東京都市大学校友会館・自由が丘クラブにて平成29年度五洋柏会総会を開催いたしました。当日は、OBの方5名、現役社員11名、2018年4月入社予定新入社員3名の19名が参加し、参加者の近況報告や欠席された方の文書による近況報告が行われました。有意義な時間を過ごし、先輩・後輩と交流を深めることができました。



◆佐藤工業武佐工会支部

幹事 小山 健太（H20都市工）

佐藤工業武佐工会（支部長：新藤修一、S57土木）は、佐藤工業（株）に所属する東京都市大学校友会会員を対象に会員同士の親睦を深めるため、平成29年2月16日に発足した職場支部です。会員は、土木、建築合わせて30名（平成29年11月）で平成30年4月に2名追加され、32名となる予定です。なお、支部発足以前から「武佐工会」と題した交流会を毎年2、3回実施しており、支部発足を機にさらなる結束が生まれると思っています。

平成29年度は、4月に支部設立記念総会を開催し、8月、10月に交流会を実施致しました。支部会員出席者も入社したばかりの新入社員はもちろん、大阪や東北からの参加者もあり出席率が7割と積極的な参加と社内の理解を頂いているおかげで、大変盛況な総会となりました。

平成30年度は、社内はもちろんのこと、大学における校友会、緑土会、如学会のイベントに参加し、会社内外問わず、都市大の輪を広げていければと思っています。



東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ

東京都市大学校友会館・自由が丘クラブは、2つの会議室とサロンがあり、東京都市大学 校友会会員であればクラス会、クラブOB・OG会などの打合せ、会議や懇親会など自由に利用できます。

■場所：自由が丘駅からバス通りを田園調布駅方向に徒歩約7分

■利用可能施設：会議室「柏」、「桐」、サロン

■利用可能時間：火～土曜日 13～17時、18～21時（原則）

■利用料金：東京都市大学校友会会員は室料無料

■利用申込：ホームページから、または電話で

■Wi-Fi：利用可能

■食事：弁当、飲み物、宴会などお問い合わせください

■詳細：ホームページから、またはお問い合わせください

■問い合わせ：メール、電話で

□電話・ファックス：03-3721-1052（火～金曜 13～17時）

□E-mail：mitkaikan@kiu.biglobe.ne.jp

□URL：https://jiyugaoka.club/ [自由が丘クラブ](#) 検索

□住所：158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-37-9

武蔵アビタシオン2階 （株）武蔵工業会館



クラブOB・OG会だより

◆グリークラブ OB・OG 会

会長 山吉 隆一 (S38通信)

現在、「武蔵工業大学・東京都市大学グリークラブ OB 会」は正式な活動を休止しており、ホームページによる、広報活動のみ行っております。

ホームページでは、東京都市大学グリークラブの行事日程、OB 合唱団「オーク合唱団」の活動内容、現役との交流会の日程等の広報活動をしています。ホームページのアドレスは、<http://www42.tok2.com/home/choroak/> または「オーク合唱団」で検索してください。

◆潜水科学研究会OB・OG会

宮下 高行 (S46経営)

昭和 43 年 (1968) 4 月にスクーバダイビング同好会として潜水科学研究会を設立。その後「文団連」のクラブに昇格した。

初代のメンバーが卒業してから、新入生が入ってくる時期には、OB・OG も新入メンバー勧誘を積極的に手伝った。ここ数年は平均 30 名程度の現役が活動している。

OB・OG 会は、ダイビング活動の他、多摩川河川敷でのバーベキュー、春の花見、隅田川花火見物、ゴルフコンペ、OB・OG 会総会などを行っていたが、最近はゴルフコンペと OB・OG 会総会程度となってしまった。

現在、OB・OG 同士のコミュニケーションのツールとして、インターネット掲示板、ホームページ (<http://www.mit-ob.senkenweb.jp/>) などを運用している。最近は卒業後に OB・OG 会に参加する OB・OG が少ないのが課題です。

2018 年春に潜研創立 50 周年を迎えることから、2017 年 11 月に、創立 50 周年を記念したパーティーを開催した。



◆コンピュータ技術研究会OB・OG会

会長 稲葉 祥平 (H24 情科)

コンピュータ技術研究会では現役学生と OB・OG との交流を図るため、平成 25 年度より毎年 OB・OG 交流会を開催しています。

設立 10 年目の若い団体であるため、歴史が浅い分若さと寛容さを生かして活動をしています。過去には、現役学生の活動報告、学生から社会人への質問、社会人の生活紹介などを企画し、少しずつ学生と OB・OG との距離を縮めてきました。

その中で昨年の 8 月 5 日に開催した平成 29 年度 OB・OG 交流会は、設立十周年を祝い、鏡開きを行いました。檜の香る枡で頂く日本酒は本団体設立からの苦勞を労うかのような格別な味だったと記憶しています。顧問の荒井秀一先生も気を良くされたのか、いつにも増して会話に弾みがついていました。

本交流会の参加者は年々増加しており、平成 29 年度は学生・OB・OG 合わせて 70 人を超えるまでになりました。今後も本団体を維持し、更に発展させていくために、現役学生と OB・OG とのつながりを更に強化していきたいと考えています。

技術的な情報共有を行う場の整備や各個人の趣味に関わるイベントの企画を進めていくことが今後のミッションです。

最後に、本年の平成 30 年度の OB・OG 交流会は 8 月 4 日に開催を予定しています。



◆柏空会 (空手道部 OB・OG 会)

会長 小穴 敏行 (S53土木)

東京都市大学空手道部 OB・OG 会である「柏空会」の会員数は現在約 300 人に及んでいます。創部は 1951 年で、2010 年 10 月に創部 60 周年記念式典を本学五島記念館にて盛大に開催しました。



会の目的は、柏空会会則に「会員相互の親睦連携を図り、東京都市大学空手道部と母校の発展に寄与する」と謳われています。この目的に沿って、年一回総会を開催し、この総会に合わせて現役・柏空会会員との合同稽古、懇親会も行っています。会員相互の親睦の一環として、会誌「柏空会だより」を年 1 回発行して、会の活動状況、後輩の活躍ぶりなどを会員に報告しています。また、部の春合宿および夏合宿には、柏空会会員も参加して師範先生の指導をサポートするとともに一緒に汗を流しており、2016 年に行われたハワイ夏合宿では、柏空会会員も 6 人参加しました。ハワイ夏合宿では、空手道部が参加して



いる国際松濤館空手道連盟のハワイ支部の皆さんとの国際交流と支部道場生の指導も行ってきました。

母校空手道部の支援以外に、柏空会として国際松濤空手道連盟全国大会に、選手を送り 2015 年第 35 回大会では組手団体戦の部で優勝し、2016 年インドネシアで開催された世界大会では会から日本代表が選出され、組手団体戦での優勝に大きく貢献しました。柏空会会員は社会に出ても空手道の稽古に勤しむ人間が多く、このような会員に対しても、母校での稽古や大会への参加を積極的に支援しています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、空手道が正式種目として認められました。柏空会としては、これを機に母校の空手道部が益々発展していくことを祈念しています。

◆ワンダーフォーゲル部OB・OG会

総務担当 小池 精一 (S54土木)

ワンゲル部は昭和31年10月に同好会としてスタートし翌32年5月正式に体育会所属の部として発足しました。平成27年には創部60周年を迎え、ご来賓、歴代顧問の皆様、OB・OG、部員など多数のご参加をいただき、大学五島記念館にて記念パーティーを開催しました。



創部60周年記念パーティー (於：五島記念館)

現在OB・OG会は会員380名、ワンゲル部員は今では40名の大所帯となり学内行事の参加や山行合宿、ボランティア活動など学内外で広く活動しています。

このような中、平成28年OB・OG会総会にてOB・OG会の持続可能な組織の構築・強化を図るため、役員を3名から12名体制に一新するとともに、佐藤新会長 (S38通信) のもと、平成29年度は会則の見直し、予算及び活動計画、リスク管理、山小屋の維持管理等について役員会を6回開催し、役員一同課題の解決や会員への情報提供等に取り組んでいるところです。

そして、我がOB・OG会とワンゲル部の象徴的な存在として蓼科山の麓には当時の部員総出で建設した山小屋(愛称：じんじろげ小屋、昭和41年8月竣工)があり、例年秋には山小屋に宿泊しOB・OG、部員でメンテナンス作業を行いながら、地元の方々と交流を深めています。平成29年度は9月、「山小屋OB・OG会」を開催し、多くの方々が山小屋に集いました。



平成29年度「山小屋OB会」OB、部員と記念写真

◆柏泳会 (水泳部OB・OG会)

会計、創部60周年実行委員 前川 峻徳 (H17電気)

我が柏泳会(水泳部卒業生の会)は、昭和34年に卒業した大先輩から平成29年に卒業した新社会人までの在籍者数220名を超える年齢層の大変幅広い団体となっています。卒業生相互の親睦、及び現役水泳部の活動の補助が主な活動内容です。通常は5月の新入部員歓迎会、10月の納会、3月の卒業生を送る会と年三回、現役生と共に懇親会を開催しています。

また、5年毎に周年行事として祝賀会を行っておりますが、平成29年度は創部60年となる記念すべき年となり、その記念式典を、10月14日(土)～15日(日)に伊豆長岡で開催しました。参加者50名(現役含む)、遠く長野、青森から参加のOB・OGも交え、大いに盛り上がることができました。

当日は、まず5年毎の定時総会からスタート。60周年記念事業として取り組んだ、ミクロネシア連邦の青少年水泳チームへの水泳用具の支援事業の報告などがなされました。これは、会員高橋昭文氏 (S54経営) が、JICAのボランティアとして水泳

競技コーチに派遣され、現地での水泳用品不足の状況から、柏泳会会員に広く協力要請をしたところ、多くのOB・OGの協力で、段ボール4箱分の水着等の水泳用品を現地へ送る事が出来ました。その後現地の子供たちからのお礼の寄せ書きや、ミクロネシアオリンピック委員会からの感謝状を頂き、柏泳会が初めて海外との交流をもった記念すべき事業となりました。

今回の事業は現役水泳部の後輩たちの協力もあり、滞りなく部旗製作や式典準備を進めることができました。その積極的な姿勢や手際の良い行動などを見ていると、「最近の若い者は…」と言うことがあっても、その先に続く言葉は「素晴らしい!」となります。これだけの年代差を超え、長きに亘り現役とOB・OGの活発な交流が続いている状況を今後も続けて、70周年80周年へと繋げて行かなければと思う今回の催しでした。



写真 60周年記念式典にて

◆卓球部OB・OG会

会長 東海林 義昭 (S38生機)

卓球部OB・OG会は平成元年2月に名誉会長兼卓球部々長大西清(機械工学科教授)・会長岡田博(S36土木)以下62名で発足しました、平成29年3月時点では教授飯島正徳名誉会長、真田普一(S32建築)会員を筆頭に192名、年齢幅67年で構成しています。

OB・OG会は現役卓球部を支援し会員相互の親睦を図る事を目的として、原則同一日にOB・OG戦(午後1:00～)を東京都市大学世田谷キャンパス、OB・OG会(午後5:30～6:00)、親睦会(午後6:00～8:30)を東京都市大学校友会館・自由が丘クラブで毎年3月第2土曜日に開催しております。

親睦会はOB・OGと現役合同、パーティー形式で開催、名誉会長から大学情報、OB・OG会々長からOB・OG会近況、卓球部監督からリーグ戦状況、卓球部主将から練習状況、選手紹介があり、後に会食・懇談をします。

平成29年度OB・OG会は平成29年3月11日(土)に開催しました。OB・OG戦はOB・OG11名、現役19名が参加し、個別に現役の技術向上アドバイス、試合練習を行いました。

OB・OG会は近況報告と新たにアンケートの提案・検討・反映を会則に追加しました。

OB・OG現役親睦会は飯島先生以下OB・OG11名、現役19名が参加し、先生から大学の近況、就職状況、私から上野洋(S40経営)計報報告と黙祷、懇談ではOB・OGから社会変動による



クラブOB・OG会だより

会社対応と今後の見通し、採用、現役から卓球技術、就職等、意義ある会合になりました。

OB・OG会活動は親睦会の他に、親睦では慶弔（結婚・病気・訃報等）・就職情報、ゴルフ、現役支援ではリーグ戦応援、練習・合宿・打ち上げ会の参加等を行っています。

◆武弓会（弓道部OB・OG会）

幹事長 二見 富士夫（S47建築）

武弓会は創部55年の体育会弓道部のOB・OG会です。弓道部の後援と会員相互の連絡・親睦を目的として、創部期から活動しており、現在、約500名の会員を擁しております。

武弓会の活動としては、毎年8月の猛暑の時期に母校弓道場において開催する「OB・OG現役交流射会」があります。時刻には学内施設で現役部員との懇親会を開催します。



OB・OG現役 交流射会（平成29年）
（左端が武弓会会長の松永津夫氏（S44機械））



創刊当初からの「弦音」

また、武弓会の特色ある活動として、部誌「弦音」の発行があります。「弦音」の発行は昭和45年から続いており、現在では夏・冬の年2回発行しています。創刊当初はガリ版刷りで表題は版面刷りといった装丁でしたが、現在はA4版10頁の立派な冊子です。弓道部幹部による現況報告や所信、現役部員の部活に対する思い、卒業生の現況報告や現役部員に対する激励などを掲載しています。編集作業は現役の協力を得て武弓会が担当しています。「弦音」は現役部員に配布すると同時に武弓会会員に郵送され、会員同士のコミュニケーションや弓道部活動への理解の醸成に活用されております。

今一つ重要な活動として弓道指導者の派遣があります。創部から40年は外部の指導者を監督として招聘しておりましたが、この十余年は武弓会による現役の指導が定着してきました。

武弓会はこれらの活動を通して、建学の精神「公正・自由・自治」を後輩達に伝えるべく支援活動を続けてゆく所存です。

◆柏拳士会（少林寺拳法部OB・OG会）

会長 津川 辰己（S51電気）

平成29年9月9日（土）に創部50周年記念式典を東京都市大学世田谷キャンパス1号館ラウンジオークにおいて開催しました。全国から大勢のOB・OGの皆様やご来賓の皆様にご列席頂き、総勢60名ほどで和気あいあいの雰囲気の中で親睦を深めることができました。

また、長年の懸案事項であった少林寺拳法部OB・OG会をご列席の皆様方のご賛同を頂き、「柏拳士会」として発足致しま



少林寺拳法部創部50周年記念式典にて

した。全国でご活躍のOB・OGの皆様との絆の「和」を広げ、現役学生との架け橋となり、現役学生への支援・援助を行っていく所存です。

少林寺拳法部のOB・OGの皆様、在籍経験のあるOB・OGの皆様、柏拳士会の活動にご賛同頂ける方は下記連絡先まで一報下さい。（E-Mail）：kashiwa.kenshikai@gmail.com

◆アメリカンフットボール部OB・OG会

会長 金田 明雄（S54機械）

アメリカンフットボール部（チーム名 ヘリオス）は1974年に同好会として設立され、現在創部43年目を迎えています。学生スポーツなのでその年度により強い年、弱い年もありますが現役、OB・OGが協力して常に上をめざして頑張っています。現在荒川監督（S55機械）を初めコーチ陣もすべてOB・OGで構成され、試合だけでなくグラウンドでの練習においても指導を行っています。また毎年4月には各年度の代表者による学年幹事会を開催し、年間スケジュールの確認、決算報告、予算承認を行いその後懇親会を開催しています。その他に毎年6月頃に新入部員のご父兄に対するクラブの活動内容や安全対策、勉学との両立などに関する説明会を、顧問の白木尚人先生（H3機械）や監督と共に行っています。また部員のメンバー表やリーグ戦の予定が入ったイヤーブックを毎年作成して、400名を越えたOB・OGやご父兄にも配布しています。さらにヘリオスのチームグッズ（ポロシャツ、キャップ、ウィンドブレーカーなど）を作成して試合会場での販売も行っています。このように現役が強くなるためのサポートを中心としてOB・OG同士の交流やご父兄にもヘリオスの活動に参加していただく取り組みを行っています。

◆ワンデリングスキー同好会OB・OG会

前52代会長 石崎 龍（機械システム4年）

ワンデリングスキー同好会は1965年から50年以上にわたり活動してきました。現在は、37名で活動しています。

今まで毎年6月にOB・OG会として、OB・OGとの親睦会を実施してきましたが様々なところでOB・OGと交流をもち、ご指導ご鞭撻賜りたいと思い、今回組織としてOB・OG会を発足することとなりました。ワンデリングスキー同好会のOB・OGの方は、是非下記までご連絡ください。

Mail：wandrung.ski@gmail.com

OB・OG会連絡者：内山裕貴（H29都市工）

平成28年度代表者：武田岳大（機シ3年）



◆山岳部OB会

事務担当 谷口 定樹（S41建築）

現在、東京都市大学に山岳部はありません。母校の山岳部は15年ほど前に部員がいなくなり廃部となりました。そのような中、OB会だけは生き残っていて、OB連中は全員武蔵工業大学の卒業生であるため、会の名称は武蔵工業大学山岳部OB会と

してあります。本体である学生山岳部が存在しないため、OB会活動は学生山岳部の指導、教育に当たる、という最大の目的を失い、親睦のためのみの存在となっています。

廃部となった頃は100名を超えた会員も、現在では80名を切ろうかとしています。最高齢会員は90歳、最若手会員でも38歳というのが現状です。OB会ではこのまま会がずると先細りになって消滅するのは何とか阻止しようと、大島弘之会長（S40通信）他、事務局、各担当の委員が頑張っています。

会の活動としては毎年、OB会会報と称する小誌を、年2回発行して会員相互の情報を交換。7月には暑気払いとして懇親会を開催。12月には近郊の山での忘年山行、忘年会を企画。OB会のホームページ（“武蔵工業大学山岳部OB会”、又は

“mitacob”で検索）の管理、更新。又、年に3回ほど委員会を開いて連絡を取っています。

会員の中には今でも山登りを続けている人も少なくありません。山岳部のOB会ですから歳はとっても山登りは続けてほしいと思います。

最後に、もし東京都市大学に山岳部が復活したら、我々ではできる限りお手伝い、応援を惜しむものではありません。



学科・学科同窓会だより

■機械工学科

主任教授 眞保 良吉

卒業生の皆様方には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。以下に、平成29年度の機械工学科の近況をご報告させていただきます。

昨年3月に機械工学科を122名が卒業し、その内19名が大学院修士課程（内、他大学大学院1名）に進学し、100名が就職、その他が3名でした。就職希望の学部生では就職率100%を達成致しました。また大学院では、27名の修士修了生について26名が就職、1名が博士課程に進学という結果でした。

平成29年度の入学試験は、志願者数が伸び悩みましたが、入学数は最終的に122名（うち女子5名）となりました。また大学院機械工学専攻修士課程には18名、博士後期課程に3名が入学しました。またTAP（2年後期でのオーストラリア留学）には、平成29年度は13名が登録を行っています。

新入生のフレッシュャーズキャンプでは、平成29年度は浜松に足を延ばし、恒例のバレーボール大会に加え、航空自衛隊エアパークとスズキ歴史館を見学致しました。また平成29年度の機械工学科の活動として、JABEE（日本技術者教育認定機構）の技術者教育プログラムの認定審査を申し込みました。このように学科教員一同、教育・研究の改善に努めております。



■機械システム工学科

主任教授 野中 謙一郎

平成29年3月に第17期生102名、機械システム工学専攻修士26名がそれぞれ卒業・修了し、4月には学部新入生120名、大学院新入生24名を迎え、設立20年目の節目の年がスタートしました。長年ご指導いただいた郡逸平先生が3月に定年退職された後を継いで、4月から白鳥英氏が講師として熱流体システム研究室に着任されました。9月には三宅弘晃准教授が1年間の長期海外研修から帰任しました。

4月に新入生研修行事のフレッシュャーズキャンプを潮来で開催しました。また、11月4日（土）には学科の卒業生を招いた恒例イベントの、第8回MESSAGE（Mechanical Systems Symposium by all Ages）が、開催されました。今年度は、基調講演で菊池拓哉さん（H25修士）から社会人としての考え方、パネルディスカッションでは若手の卒業生6名による大学での学び、に関する活発なディスカッションが行われ、出席した在校生118名にメッセージを送っていただきました。合計で30名の卒業生が参加し、大変な盛会となりました。

本学科も20歳で大人の仲間入りです。皆様のご支援に感謝するとともに、今後も様々な形でご指導頂ければ幸いです。



MESSAGEでのパネルディスカッションの様子

■機親会

会長 松村 慶一（S49機械）

機親会は平成28年度機械工学科（学部122名）、機械システム工学科（102名）のそれぞれの卒業生を迎えて15,600名で構成されています。先般、昭和18年卒業の大先輩にお会いする機会がありました。当時の本学前身の名称武蔵高等工業学校卒業とのこと。そして今も頑張っていらっしゃいました。機械系学科卒業の多くの方々が社会で活躍し、また貢献されていることに感慨の思いがあります。

平成26年10月に機親会80周年を開催しました。108余名の多くの方々に参加いただき、今後の発展を誓い合いました。機親会では100周年に向けて新たな役割を担いたいと考えています。卒業生各位の技術力で、機械工学技術の新たな社会貢献を目指して、新たなプロジェクトとして学生支援、産学連携支援、地域社会連携に取り組みます。各位のご協力をお願いします。

最後に、機親会80周年記念に参加いただいた方々に寄付金をお願いいたしました。そして51.1万円余の浄財を頂きました。本寄付金は、主として機械系学科学生の技術力向上を狙ってものづくり支援センターに実験研究資金として寄付させていただきました。この場をお借りしてご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



■原子力安全工学科

主任教授 河原林 順

原子力安全工学科は平成 29 年度末で 10 周年を迎える節目となりました。だからというわけではありませんが、平成 29 年度から学科の入学定員が 45 人となり、48 人の新一年生を迎えることとなりました。その結果、フレッシュマンキャンプもバス 2 台体制となり、にぎやかな学年となっております。写真はフレッシュマンキャンプでの宿泊ホテルのオリエンテーションの様子です。皆様も御経験のことと思いますが、高校とは異なり時間割が個人で異なるため、それぞれが履修情報を睨みつつ時間割を組み立てるという大学最初の洗礼を受けている最中です。

教員も徐々に入れ替わりつつあり、平成 29 年 4 月より新たに 3 名の教員が着任し、流体、耐震、廃炉の研究室を立ち上げております。また、退職された横堀教授の退職記念パーティーが盛大に開かれました。なお、横堀名誉教授におかれましては非常勤として学科にご尽力いただいております。

教育関連では原子力規制庁の規制人材育成事業に平成 29 年度から採択され、新たな講義と実習を立ち上げつつあります。新規実験機材の導入等、少しずつではありますが教育環境を改善すべく努めております。卒業生の方々もご活躍の毎日とは存じますが、秋の学園祭などの際にホームカミングデーも開かれますので、同窓会を兼ねて同期で集まり来学いただけると教員一同うれしく思います。



■電気電子工学科

主任教授 野平 博司

昨年 4 月に多くの新入生を迎え、例年通り新入生、補助の上級生およびクラス担任などの教員が参加して 1 泊 2 日（鴨川ホテル三日月に宿泊）のフレッシューズキャンプ（教務ガイダンス、スポーツ大会、グループ討議、飯盒炊爨などを行う）で新学期がスタートしました。新入生の友達作りと教員や上級生との面識をつくるのが狙いの行事です。掲載の写真（学科のホームページ <http://www.ee.tcu.ac.jp/> のニュースから）は、初日の体育館で撮影したものです。

学科のニュースとしては、改組により平成 31 年度から現在の知識工学部情報通信工学科の一部と一緒に、電気電子通信工学科になる予定です。電気電子の分野に通信分野を融合させることで学科の魅力の向上を目指して改革を行っていきます。最後に、平成 29 年度の就職状況は、企業から即戦力として期待されている大学院修了者については全員内定しましたが、残念ながら学部卒業生は全員ではありませんでした（1 月末時点）。来年度以降は学部卒も含めて 100 % を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。



■原子力友の会

羽倉 尚人（H17 エネルギー基礎）

原子力友の会では毎年 2 月に行われる卒論発表会を審査し、優れた発表をした学生へ「原子力友の会賞」を授与している（写真）。学位授与式では、成績優秀な学生が表彰される場面が多いが、この友の会賞は成績ではなく、卒論発表を如何に頑張ったかということの評価の対象としている。従って、4 年間の成績が必ずしも振るわなかった学生にもチャンスがある。工学部には研究室に配属されてから急激に伸びる学生がいる。そんな学生にもスポットライトが当たる場面があってもよいのではないかと、そんな思いがある。友の会賞は 2017 年 3 月で 5 回目。まだまだ歴史の浅い賞ではあるが徐々に浸透している。これが学生のエンカレッジ策の一つとなればと願っている。



2017 年 6 月 10 日に渋谷のサテライト教室にて第 6 回定期総会・講演会を開催した。講演会では 4 月に本学共通教育部に着任された西村太樹先生に「不安定核物理の最前線」と題してご講演いただいた。総会では卒業生と学生とのつながりを強化するための具体的な施策として閃源会との交流の場を開催することになった。実際に顔を合わせて交流する場の重要性を改めて感じている。今後もさらに発展させていきたいと考えている。（<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>）

■電友会

会長 石田 弥（S45 電気）

平成 29 年度は電友会設立 50 周年を迎え、平成 29 年 7 月 8 日に記念総会を開催致しました。校友会吉田勝会長、名誉教授堺孝夫先生・光井英雄先生（S32 電気）、野平博司電気電子工学科主任教授、江原由泰電気電子工学専攻主任教授をはじめ、多くのご来賓をお迎えし、現役の卒業生の先生と会員を含め 149 名の皆様にご参加いただきました。

基調講演として湯本雅恵副学長（S47 電気）に東京都市大学の現状の課題と取り組み方針をお話し頂き、また尾崎正明常任幹事（S54 電気）より工学の勉強がしたいという学生の熱い思いが立ち上がったという大学の生い立ちの発表を聞き、一同後輩の役に立ちたいという思いを新たにしたい一日でした。また久しぶりに多くの先生方にお集まり頂き、展示された当時の学生実験のグループ写真等を見て大いに旧友を温めやかな会となり、盛会裏に終了しました。ご参加各位に感謝申し上げます。

<平成 30 年度の主事業計画>（本稿の締め切り時点）

- ・電検三種の資格取得支援
- ・フレッシュャーセミナーへの講師派遣

この他、現状では卒業生の現役先生が減少しており、学生への働きかけには電気電子工学科の先生方との交流が重要となっております。研究室単位のチームで競う鳥山杯ソフトボール大会支援や卒業式の電友会長賞授与の機会以外にも現役先生との交流を深める取り組みをしたいと考えています。

<平成 30 年度の会合予定>（役員改正があります）

- 1、電友会幹事会 平成 30 年 4 月 21 日（土）15 時～
- 2、電友会総会 平成 30 年 7 月 7 日（土）時間未定

■医用工学科

主任教授 森 晃

医用工学科は、臨床計測器械工学（桐生、森、和多田）、生体計測工学（島谷、京相）、知覚システム工学（平田、小林）、生体認知工学（仁木、桃沢）4つの研究室からなり、4つの研究部門が互いに連携しながらヒトの健康に役立つ教育と研究をしています。この状況も昨年度と何も変わっておりません。特に、医用工学科独自の教育、研究プログラムが、医歯薬系総合大学である昭和大学と連携して行われており、学生実習の中心が旗の台の昭和大学病院で行われます。昭和大学病院の実習では、実際の医療現場で使用されている内視鏡装置などを手に取り操作することも可能で、大型装置の実物を体感することもできます。MRIやX線CT、核医学検査や脳波検査などは専用の部屋を必要とし、体内の情報を取得することがいかに難しく、大掛かりな装置を必要とするかを痛感させられます。特に臨床工学士を志望する学生には病院の手術室で人工心肺などの見学も可能です。他にも、医療機器開発の歴史についての話では、最新の装置は患者さんを安心させるために、丸みを帯びたデザインや淡い色調を用いていることなども教えてもらい今後の医療機器開発のヒントなども得たりします。このような実物教育が実を結び夏に行われる東京都市大学オープンキャンパスの参加者数も増加、さらには、受験者数増加を記録しております。

■エネルギー化学科

主任教授 高橋 政志

エネルギー化学科では平成29年3月に17期生54名の卒業生を送り出し、4月には70名の新入生（うち女子学生15名）を迎えました。入学直後に行われたフレッシューズキャンプでは、宿泊地を千葉県木更津市に変更して、1日目はバレーボール大会、2日目は東京ガス袖ヶ浦工場と新日鉄君津製鉄所の見学を行いました。また、初日の夕食後には例年どおり化源会上級生による懇親会が行われ、これらのプログラムによって新入生同士あるいは教職員と仲良くなって、大学生活を順調にスタートさせています。教員の異動に関しては、平成17年から学科の発展にご尽力いただいた杉山技士補が3月に定年退職されました。杉山技士補には学生実験や卒業研究で、あるいは個人的にもお世話になった学生が多かったのではないのでしょうか。

平成30年度に本学科はC地区で建設中の新棟（表紙解説参照）4階に移転する予定です。懐かしい研究室も今年度で見納めとなりますので、卒業生の皆さまにはお時間のある時にお立ち寄りいただければ幸いです。



杉山技士補の退職記念パーティー



フレッシューズキャンプ



研究室対抗野球大会

■医工会

会長 小宮山和弘（H23生体医）

副会長 小林 匠（H23生体医）

医工会は、平成23年6月18日（土）に、工学部生体医工学科（現医用工学科）OB会として設立されました。当日開催の設立総会にて承認された役員は以下のとおりです。

会長 小宮山和弘（H23）臨床器械工学研

副会長（総務担当）永井 公太（H23）生体認知工学研

（会計担当）小林 匠（H23）生体計測工学研

総務 西山 譲二（H23）生体認知工学研

管 美冬（H23）知覚システム工学研

会計 今泉 洋人（H23）知覚システム工学研

平成23年3月に卒業した生体医工学科1期生のうち、上記役員が前年から周到に準備を進め、設立総会当日を迎えることが出来ました。また、前年に留学されていた京相雅樹准教授（当時は講師）による講演会「アメリカ留学を終えて」では、現地でのエピソードや社会に巣立っていく1期生へのメッセージなど、ユーモアを交えてのご講演に、全ての聴衆が魅了されました。その後の懇親会では、学科設立にご尽力を頂いた石島正之名誉教授をはじめ、数多くのご来賓をお迎えして、非常に楽しいひと時を過ごしました。そして、この1期生の集まりは、今後の活動とまたの再会を約束し、閉会となりました。

その後の活動は、役員一同がそれぞれの職場で第一線として働くようになったこともあり、休止状態となっております。

平成30年には、総会の開催など、活動再開を目指して準備を進めたいと考えております。

（事務局：mwatada@tcu.ac.jp）

表紙解説

勝又 英明（S55建築）

第5号の表紙は、世田谷キャンパスで建設中のC1棟の工事の写真です。竣工が待ちきれないので、工事の様子をお見せします。撮影は平成30年2月8日で、完成は3月ですので、正に追い込み真最中です。

C1棟はなかなか全景を撮影することは難しいですが、6号館4階の東側の研究室の窓より撮影しました。C1棟には、撮影させていただいた6号館の実験室や研究室、製図室等が移転します。移転後、6号館は取り壊しになるので、しばらくはこのアングルからはC1棟は見えないかもしれません。

撮影時点では、ご覧のように工事中ですので、3月の竣工後の印象とは多少違うかもしれません。外構の工事がまだですし、西側の壁面の植栽も、生えてくるのに時間がかかります。今年の4月以降は竣工したC1棟をご覧いただけたと思います。是非、眺めに来てください。東京都市大学の新たな顔となることと思います。ご期待ください。



C1棟南側より見る

■建築学科

主任教授 勝又 英明 (S55建築)

建築学科は平成 29 年 11 月の時点で、学部生 466 名（内女性 158 名）、大学院生修士課程 48 名（内女性 14 名）、博士後期課程 6 名（内女性 2 名）が在籍しており、34%（なんと 1/3 を超えました。）が女性です。

教職員の構成（平成 29 年度）は、専任教員 14 名、専任教員（教育講師）2 名、教育職員（技術員）2 名、事務職員 1 名の体制で、濱本先生の後任である構造系専任教員として平成 29 年 4 月より焦瑜先生（准教授）が着任しました。佐藤幸恵先生（准教授）に続き 2 人目の女性教員です。教育講師の及川喜代文先生（環境・設備系）、山田俊一先生（構造系）は平成 29 年度でご退職予定です。学部主任教授は勝又英明、専攻主任教授は大橋好光教授で変更ありませんが、就職担当が 2018 年より西村功教授から天野克也教授に変わります。本学の就職にかかわる皆様ご注意ください。

建築学科の活動につきましては、東京都市大学 Website 内にあります建築学科 HP をご覧ください。建築学科公式 FB ページもあります。FB は随時更新しておりますので、建築学科の今の姿がご覧いただけます。また、年に 2 回発行の如学会 News の中でも、毎号「建築学科の近況」により建築学科の活動を報告しております。

建築学科は平成 29 年で創立 88 年となりました。1929 年（昭和 4 年）に本学の創立時に設立されましたので、あと 2 年で 90 周年となります。これからも建築学科の歴史を積み重ねていきたいと思います。建築学科同窓生の皆様のご協力が不可欠です。これからもよろしくお願いいたします。

■如学会

会長 山岡 嘉彌 (S46建築)

この 1 年も校友会並びに会員各位には大変お世話になりました。各イベントは、如学会 HP、会誌「如学会 NEWS」（年 2 回発行）、如学会メールマガジン（月平均 2 回発信）にてお知らせしております。本年も校友会の皆様と交流を深めるべく、各行事へのご参加をお願いいたします。今年の如学会「定期総会・講演会・懇親会」は、2018 年 6 月 2 日（土）15：30 より渋谷エクセルホテル東急にて開催いたします。（15：30-16：30 総会、16：45-17：45 講演会、18：00-20：00 懇親会）



「飯倉三ツバツ展」見学+ババ都市建築視察ツアー（2017.4.25-4.29）



如学会・進路ガイダンス（2017.11.22）



如学会OB・OGによる夏季特別講義（2017.8.1-8.9）



「建築100人展図書館展（回顧展）」（2017.10.7-11.5）



「建築100人展2017大学展」（2017.11.4-11.5）



「建築100人展2017浅草展（巡回展）」（2017.12.2-12.10）

■都市工学科

主任教授 丸山 収 (S58土木)

平成 29 年度に、計画マネジメントに五艘隆志准教授、水圏環境に三上貴仁准教授が赴任されました。白旗弘美先生が、教授に昇格されました。教育・研究および学科運営に活躍されることを期待しております。

都市工学科の入試状況、卒業生の就職状況に関しましては、市民生活、経済活動の根幹である社会基盤施設の重要性に対する認識が高まっていることもあり、好調に推移しています。

10 月には、JABEE の中間審査を受審し、認定継続となりました。JABEE 認定は、卒業後技術士を目指す学生には大変重要なことであり、引き続き JABEE 認定プログラムとして、教育の質保証に関する改善活動を継続して実施して行きます。

都市工学科および都市工学専攻では、平成 28 年度の土木学会土木技術検定試験で 92 名の合格者が出ました。学生が自分の学力を客観的に証明できるように、土木技術検定試験への受験を積極的にサポートしています。

また、JST の支援によるさくらサイエンスプログラムにより、タマサート大学（タイ）およびデラサル大学（フィリピン）が都市工学科を訪れて、研究活動を行いました。日本人学生にいい刺激となったようです。今後も国際交流活動を活発に行っていく予定です。

平成 28 年度に社会基盤マネジメントの修士・博士プログラムを開設しました。講義の一部を受講したいという要望が寄せられて、平成 29 年度から科目等履修生制度を用いた履修証明プログラムを開講しております。さらに平成 30 年度より、社会人大学院にリスクマネジメントプログラムを開講予定です。

■緑土会

総務 丸山 収 (S58土木)

平成 29 年度の緑土会総会・懇親会が、平成 29 年 11 月 11 日（土）に世田谷キャンパスにおいて開催されました。総会は、草柳俊二会長（S42）を議長に、平成 28 年度経過報告および会計報告および以下の次期役員が承認されました。総会後の講演会では、「国際市場から見た日本の建設産業の技術力」として草柳会長から講演いただきました。懇親会では、ご来賓として吉田勝校友会会長（S43 建築）、原口兼正校友会副会長（S49 通信）にご出席いただき、最年長参加者である萩原三七夫大氏（S24）による乾杯の後、旧交を温める機会をもちました。

大学支援および緑土会会員の一層の交流を図るために代表幹事会・活性化部会が活動をしています。様々な情報発信をしていますので、緑土会 HP を是非ともご覧ください（校友会 HP から学科同窓会を経由してご覧になれます）。また、平成 28 年 4 月から開講した大学院工学研究科都市工学専攻の社会人対象「社会基盤マネジメントプログラム」は、今春修士課程第一期生が修了します。

- ・役員改選人事 次期緑土会役員（平成 30 年 4 月より 3 年）
会長 皆川勝（S54）
副会長：平本公男（S53）、黒沼良彰（S53）、高橋禎夫（S57）
監事：菊地孝明（S53）永尾浩一（H04）
総務部長：丸山 収（S58）
総務担当：渋谷重彦（S58）、服部尚道（H04）
総務会計担当：伊藤和也（H10）
顧問：小玉克己、中部恭二、松下正勝、草柳俊二
- ・平成 30 年度の総会・懇親会は、11 月 10 日（土）に母校で開催

■情報科学科

主任教授 横山 孝典

情報科学科の近況を報告させていただきます。まず学生の動向ですが、平成29年3月には100名の卒業生を送り出しました。そして4月には入学生124名を迎えました。11月1日現在の在籍者数は1年生123名、2年生97名、3年生101名、4年生102名となり、合計では423名となります。

次に教職員の動向ですが、平成29年3月末日をもって齋藤友彦教育講師が退職されました。代わりに4月には相原研輔教育講師が着任され、プログラミングを中心とした演習科目を担当いただいております。また、張英夏先生が准教授に昇格されました。

昨今は就職状況が改善され、同時期と比較すると、好調だった昨年以上に今年は高い内定率となっています。とはいえ、経団連の就活日程への対応やインターンシップへの参加等、学生にとって就活はますます大変なものとなっています。

本学科は以前より教育の質向上のための努力を重ねてまいりましたが、今後も社会の要請に応える技術者の育成のため、教育・研究のさらなる向上を目指していく所存です。これまで以上のご支援をお願い申し上げます。



フレッシューズキャンプにおけるポスター作成の様子

■情報通信工学科

主任教授 柴田 随道

平成29年度は74名の学生が入学しました。4月に恒例のフレッシューズキャンプでは、千葉県木更津に出掛けて友達作りや先輩、教職員との交流を図りました。本学科の10月末時点の学生数は4年生64名、3年生76名、2年生64名、1年生74名、総数278名の学部学生が学んでいます。4年生は4割近くの学生が大学院への進学を予定しています。就職についても情報通信に関わる職種の求人は堅調で、本学科はこのところ安定して高い就職率を実現しています。毎年、学科研究会の通工会幹部の学生達が下級生の為に学科研究室見学会を企画し、また通友会の支援を得て企業研究所見学会を実施しています。平成31年度(2019年度)の改組では工学部電気電子工学科と一緒に、電気電子通信工学科として更なる発展を目指す予定です。教員については、4月に塩本公平教授が本学科に着任されコンピュータネットワークの分野を中心に学生指導にあたっておられます。一方、8月に宇谷明秀教授が急逝されましたことは残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り致します。最後になりますが、引き続き学科運営

へのご支援、ご協力を何卒よろしくお願い致します。



2年次の演習及び実験の様子(TAの大学院生による導入風景)

編集後記

小林 哲男 (S47土木)

「都市」第5号が出来上がりました。今回も校友会編集部会の今井部会長を中心に「都市」の原稿を纏めました。

今回は前号と違う印刷会社に決まり、印刷をお任せしましたが、出来栄は如何でしたでしょうか？

昨年に続き今回も印刷会社の選定については実績のある会社を含め4社で事前打合・入札を行い各社とのヒアリングを行なった後に業者選定を行いました。

今号も先号からの編集趣旨であります「写真を多く載せる」をモットーに誌面作りをしました。出来るだけ写真を掲載するために写真の大小よりも数を優先し、文面については本部役員の紹介文章は一覧表で確認して頂けるとして省くこととしました。

今号のもう一つの目玉は「クラブOB・OG会」の紹介です。最初は原稿が集まるかどうか危惧しましたが結果として10以上のクラブを紹介することが出来ました。中に会報を発行して活動されているクラブもあり、その一部の活動を紹介出来てよかったと思っています。

今後校友会も年一回発行の「都市」だけの情報発信に頼るのではなく、校友会ホームページの充実を今後図り、積極的に校友会活動の広報(随時掲載・「都市」原稿の掲載等)を行い、会員相互の情報交換などを通じて、会員の皆様が校友会活動・行事に参加してみたいと思われる様な「校友会のあり方」に持って行けたらと思っています。

■通友会

会長 鈴木 威一 (S41通信)

通友会は新体制になって3年目を迎え1年ごとに必ず事業を1件は増やそうと言う合言葉で今年は既に2回の講演会を開催した。5月に原口兼正元セコム代表取締役社長、7月に高松明前在スロバキア特命全権大使が講演され、盛会であった。もう1回講演会を予定している。また8月には自由討議の集いを通友会役員と、通工会の学生役員数名との合同行事として開催した。今後の通友会のあり方について若い声も反映した有益な情報交換が出来た。懸案であった会費徴収についても一歩進んだ計画を準備中であり、卒業生への寄付依頼も強化して財務体質改善を開始したい。9月には、昨年に続き学生と卒業生合同のバス研修会を実行した。合計約50名の参加者で、NTT技術史料館を午前中に、そしてセコムの中央研究所であるSI研究所を午後には訪問した。セコムでは普通では知る事の出来ない研究段階のドローンや気球による要人警備や顔認証の実際など、貴重な研究内容を実物を示して丁寧に説明して頂いた。新・旧主任教授のご援助を得て、学生の意欲向上に資するために行っている通友会賞をさらに拡充すべく検討を行っている。

平成30年度総会は、6月16日(土)午後開催予定です。



■経営システム工学科

主任教授 森 博彦

昨年度もご報告いたしました。経営システム工学科は現在国際化を目指して、様々な活動をしています。これまでもマレーシア・ジョホール州にある Universiti Tun Hussein Onn Malaysia (UTHM) との連携を模索しておりましたが、学科の枠組みを超えて、平成 29 年 11 月 26 日に大学間連携を締結しました。マレーシアで行われた締結式には、三木学長の代理として、田口知識工学部長、森経営システム工学科主任教授、そして連携にご尽力されてきた松崎特任教授が出席いたしました。近々、UTHM 学生 10 名を本学科で受け入れる予定です。また、本年度もタイから若手技術者を受け入れての「海外社会人講座」を開講、この講座は現在大学院の国際コースとして常時設置する方向で動いています。特別講義「グローバル社会における経営」は平成 29 年度も二子玉川夢キャンパスで開講しています。社会人の方も参加可能ですので、是非、足をお運びください。

経営システム工学科はここ数年で大きく人事が変わります。平成 29 年度は山口大学より田村慶信教授に着任頂きました。ビッグデータ関連の教育・研究に携わって頂いています。また、平成 29 年度いっぱい横山真一郎教授が定年を迎えられ、さらに平成 30 年度には細野泰彦准教授が定年を迎えます。これまで経営システム工学科にご尽力いただいた方々が次々と定年されていき、寂しい限りです。最後に、経営工学科、システム情報工学科、応用情報工学科、現在は情報通信工学科とご一緒にきた情報通信工学科宇谷教授が 8 月に急逝されました。宇谷先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



■経友会

会長 矢崎 克実 (S54経営)

みなさん、お元気ですか？経友会会長を拝命して、平成 29 年で 10 年が過ぎました。月日が過ぎる速さに驚くばかりです。

平成 28 年より学生支援として海老沼常任幹事の指導により実施している工場見学は昨年、3 社の見学を行いました。

5 月 24 日 キヤノンアネルバ(株) 10 月 23 日 森永製菓(株)

12 月 15 日 富士電機(株)

特別講義は、4 回目の共催をいたしました。是非一度、二子玉川の「夢キャンパス」へご参加ください。

また、学生の就職支援として「校友会進路相談会」に参加をいたしました。参加希望の企業がありましたらご連絡ください。学科卒業生には同期会・同窓会へ支援の準備をしています。同窓会等を計画されましたら経友会へご一報ください。

なお、平成 30 年度の経友会総会は例年通り世田谷祭のホームカミングデーに合わせて開催いたします。お誘い合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。



2017.10.23 森永製菓工場見学

■自然科学科

主任教授 飯島 正徳

自然科学科は平成 29 年度から定員増が認可され 60 名 (35 名増) の定員となり、9 期生 65 名 (男子 46 名、女子 19 名) が入学しました。また、5 期生 38 名 (男 20 名、女 18 名) が社会に巣立って行きました。専任教員の定年退職者は無く、4 月に高知大学から福田達哉教授が着任しました。教務関係としては、昨年度からクォーター制が導入され、TAP にも本学科の 2 年生が 1 名参加しています。また、横浜キャンパスの環境情報学研究科に本学科の教員 4 名が所属したこともあり、本学科から 3 名が環境情報学研究科修士課程に進学しました。

学科の大きなニュースとしては、大学の創立 90 周年 (2019 年)、創立 100 周年 (2029 年) に向けた中長期計画「東京都市大学アクションプラン 2030」の中で、キャンパス教育環境向上プロジェクト (教育組織の規模に応じたキャンパスの整備) として、キャンパスのリニューアルが進められています。その中で、卒業生の方にはなじみの深い 6 号館が取り壊されることになり、平成 30 年 3 月竣工で C1 棟 (仮称：表紙解説参照) が建築されました。この C1 棟に悲願であった自然科学科研究室が誕生する予定です。平成 30 年度は本学科にとって開設から節目の 10 年を迎えます。その意味でも、新しい自然科学科として再スタートの年になるのではないかと思います。

毎年のことですが、本学科の就職活動では、本学 OB の方に変にお世話になっています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。自然科学科の卒業生も、皆様の一員として、本学及び社会に貢献する日が来ることを願っております。

■さがけ

会長 加藤 広樹 (H25自然科学)

自然科学科同窓会さがけは、設立 5 年目を迎え、卒業生の会員は 156 名となりました。5 年目を記念し、2017 年 11 月 5 日 (日) に東京都市大学世田谷キャンパスにて第 1 回自然科学科ホームカミングデーを開催いたしました。ホームカミングデーは藤田彩花委員長 (H28) のもとに実施し、卒業生・在学生・教員の方々 6 名に講演をしていただき、会員 40 名の参加がありました。講演会後は、ラウンジオークにて懇親会を実施し、在学生・卒業生・教員の交流と親睦を深めることができました。

直近 1 年間の活動は次の通りです。(1) 2016 年度さがけ賞の 3 名授与、(2) フレッシュヤーズキャンプ TA3 名分費用支援、(3) 2017 年 5 月総会実施 (20 名参加)、(4) 第二期役員の選任、(5) 会報「先駆け」第 4 号、第 5 号の発行、(6) ホームページの更新など。活動の最新情報と活動予定は、さがけホームページ (<http://sakigake.html.xdomain.jp/index.html>) にて随時更新しています。ぜひご確認ください。



■環境創生学科

主任教授 室田 昌子

環境創生学科は、生態環境分野と都市環境分野の2分野で環境共生や自然共生、環境負荷軽減を図る地域や都市の環境づくりをめざして創設された学科であり、もとの環境情報学科から2学科に分けて専門を特化した。フィールド重視、現場重視の教育で、五感の重視からITの駆使までを段階的に習得し、また分析・解析からデザイン・プランニングまでをトータルにつなぐ教育を行っている。環境情報学科時代よりも専門家の育成を学科としてめざしており、環境づくりの専門家を多く輩出したいと考えている。

平成28年度から柏門技術士会の方々には大変お世話になり、技術士一次試験の学部合格者を少しでも増やすべく、技術士補コースなどの講義や模擬試験、きめ細やかな支援や様々なアドバイスをいただいている。

おかげさまで学生には「技術士」という資格が少しずつ浸透してきており、平成28年度は環境部門で全国3番目の合格者数となり、平成29年度は全国で2番目となり、少しずつ合格者が増加してきている。

技術士一次試験に合格すると、学生たちは少し自信が持てるようである。現代の不透明社会に向かって不安いっぱいな学生の心の支えにもなるように見える。少しでも多くの自信を身につけて、そのうえで専門を生かして社会で活躍してもらいたい。なお、横浜キャンパスは卒業生のつながりが強いとは言えないと感じているが、柏門技術士会のつながりの強さを、現役学生たちには、是非感じてもらいたいとも願っている。

■環境マネジメント学科

主任教授 郭 偉宏

平成29年は環境マネジメント学科に改組してからの1期生109名が卒業し、5期生79名が入学しました。専任教員に変更なく、教授7名、准教授2名、講師1名の体制で運営しています。4月からフレッシューズキャンプ、横浜祭、オープンキャンパス、チャリティコンサートなどの恒例行事を順次行い、盛況のうち無事終わりました（写真はフレッシューズキャンプ、オープンキャンパスの風景です）。8月に9名の2年生（男性7名、女性2名）をTAPに参加するためオーストラリアへ送りました。

さて、平成29年は環境マネジメント学科にとって変化の年でもあります。学科の名称は時間をかけて議論した結果「環境経営システム」に変更します。変更時期は2年後となりますが、これに伴い、教員構成、入試制度、カリキュラム、広報（ホームページ）など大幅にリニューアルすることになります。狙いは「**環境を武器にした攻めの経営**」のできる人材の育成です。文系・理系問わず、環境に興味のある人、経営に興味のある人、問題発見と問題解決の技能を身につけたい人がぜひ来て欲しい。校友会のみなさん、よろしくお願いします。



■社会メディア学科

主任教授 小池 星多

メディア情報学部社会メディア学科では、平成29年度から1年生に「基礎ゼミ」という新しい授業を導入しました。平成28年度までは、1年生は入学して大教室で授業を受ける中で学習方法がわからず、授業についていくことができなかったり、友人もまだできない状態で孤独感をもち、大学に適応できずに結果的に退学に至るケースも少なからずありました。3、4年生であればゼミに所属して少人数で指導教員と密度の濃いコミュニケーションを行うことができますが、1年生では少人数の授業がありません。そこで、充実した大学生活を送ってもらうために、1年生から少人数の授業を設けることにしました。それが「基礎ゼミ」です。基礎ゼミでは、約11名の1年生を専任教員1名が担当し、7回の授業の中で基本的な学習方法や文章の書き方を学んだり、将来設計を描きます。基礎ゼミは、学生は、大学で学ぶ姿勢を身につけることができ、教員は、1年生に直接接して彼らの生活や学習の状況を把握して早い段階で問題を抱えた学生に対応することができるので、学生、教員の双方にとって非常に評価の高い授業となっています。この基礎ゼミは、平成30年度以降も授業の質を高めていく予定です。



基礎ゼミでブレインストーミングを行っている様子

■情報システム学科

主任教授 梅原 英一

平成29年3月に情報システム学科1期生116名が卒業しました。卒業生の就職先を見ると情報サービス業が75%、製造業が12%でした。また職種でみると、製造業やユーザ企業のシステムエンジニアも多く、全体でシステムエンジニア職が85%となりました。「IT/ICT業界でプロジェクトマネージャとして活躍できるエンジニアを育成する」という学科の目標の第一歩は踏み出せました。今後の卒業生の活躍に大いに期待するところです。

平成29年6月の横浜祭では「AI×ワライナキ presents 作詞コンテスト」を大谷研究室と社会メディア学科の岡部研究室の共催で開催しました。大谷研究室は、人工知能技術を活用した自動作曲システムを開発しています。今回のイベントでは人工知能とフォークデュオ「ワライナキ」（写真左）によって作られた楽曲に歌詞をつけていただくという作詞コンテストでした（写真右はワライナキ出演による横浜祭の作詞コンテストの風景）。当日の審査の結果、矢島成浩さんが作詞した「夕陽の手紙」が最優秀賞に選ばれました。



■都市生活学科

都市生活学部 学部長 川口 和英

都市生活学部は、社会科学系の学部として2009年4月に開設し、2013年には大学院都市生活学専攻を設置しました。平成27年度よりカリキュラムを改編し、「都市のライフスタイル」、「都市のマネジメント」、「都市のデザイン」、「都市のしくみ」の4領域で、教育・研究をすすめています。2015年より「東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）」がスタートし、1年次の準備教育と2年次5か月間のエディスコワン大学（ECU）への留学プログラムを実施しております。都市生活学部は学内最大の90人の募集枠をもっています。海外研修（欧州、アジア）とTAPを駆使し、グローバル人材の育成にも力を入れています。TAPでの協力関係にある豪州ニューコロンボランによる学生海外短期派遣事業は2回目であり、11月5～10日はECUの都市計画や都市環境を専門とする学生・教員のため、東京の湾岸や渋谷や二子玉川駅を中心とした都市計画と開発を学ぶプログラムを実施しました。ECU学生6名とティム・パーキンズ先生、東京都市大学からはTAP参加の学生や都市生活学部の学生が参加しました。また、10月4～19日にはマレーシア工科大学（UTM）都市環境学部との研究交流により6人の教員を受け入れ、今後の国際化対応や都市研究における協力を合意しました。



ECU学生海外短期派遣研修



UTM研究交流；鎌倉にて

■楷の木会

清田 華代（H17環境情報）

2017年6月10日（土）、横浜祭初日、楷の木会主催の平成29年度Homecoming Day（第12回同窓生集い）を開催いたしました。

「第一部横浜キャンパストークライブ“YC talks”」では先生と卒業生3名による講演会を実施しました。メディア情報学部情報システム学科横井利彰教授（S56電気）による特別講義「社会人になった君たちに贈る補講」（講義テーマ「教育のための情報環境デザインー横浜キャンパス設置前夜から現在、そしてこれからー」）では、開校前の貴重な写真を織り交ぜながら、先生方が横浜キャンパス創立のためにこめた想いを伝えて頂きました。

卒業生による講演「卒業生のいま、そしてこれから」では、1期生：志賀厚介さん（H13環境）「少し時間をかけて見つけた道、結果いま弁護士」、5期生：並木崇さん（H17環境）「環境を守る、自然を守ることを仕事にして」、8期生：坂本征隆さん（H20情メ）「転職を機に目指した“パラレルキャリア”1年生」の3名に卒業後のキャリアの中で岐路に立った時に考えたことなど、ありのままの卒業生の姿を講演して頂きました。

第二部の懇親会では、合計92名にご参加頂き、多くの在校生・卒業生・学校関係者のみなさまが集いました。前年に引き続き、託児所とキッズスペースも好評でした。



■児童学科

人間科学部 学部長 井戸 ゆかり

平成29年度は102名の新入生を迎えました。4月7日から一泊で河口湖にフレッシュキャンプに行き、富士樹海の散策、シニアスタッフ（2、3年生）のリードによるレクリエーション等を通して、新入生同士、教員との親睦を深めました。

学部の取り組みとしては、秋に夢キャンパスにおいて人間科学部公開講座を3回実施（うち1回は幼大連携事業）し、多くの参加者がありました。以前より子育て支援センター「ぴっぴ」などを通して地域貢献をしてきましたが、10月には総合研究所の中に子ども家庭福祉研究センター（早坂信哉センター長）を開設し、研究推進や行政との連携による成果が期待されます。「ぴっぴ」利用者も次年度には延べ30万人になる見込みです。

グローバル化においては、TAPに初めて2名の学生が参加し、エディスコワン大学（ECU）で多くの学びを得て帰国いたしました。また、3月にはウーロンゴン大学での海外研修に39名の学生が参加する予定で、ホームステイをしながら、大学でのオーストラリアの幼児教育およびその変遷について講義を受け、幼児教育施設で実習を行います。

就職においては例年同様多くの公務員（公立保育士を含む）を輩出し、一部上場を含めた一般企業にも就職しており、本学部学生のコミュニケーション能力の高さが評価されています。

11月5日のホームカミングデーには東京都市大学、東横学園女子短期大学の卒業生が一同に集うことができ、校友会の皆様のお陰だと感謝しております。



■新美砂会

副会長 川辺 加代子（S50国文）

◇新美砂会総会・等々力キャンパスホームカミングデー

平成29年11月5日、第3回総会を東横学園女子短期大学時代の文科校舎、現在は東京都市大学研究棟にて開催し、本会の活動・会計報告と母校と校友会の取り組みなどを報告いたしました。引き続き等々力キャンパスホームカミングデーが開催され、ご来賓の先生方や卒業生と共に旧交を温めることができました。今回も等々力会メンバーが中心に会の進行を担ってくれました。ベビーカーを押しての参加者もいて、これまで以上に和やかでアットホームなホームカミングデーとなりました。

◇新美砂会イベント開催

平成29年12月22日（金）に「相模湖・よみうりランドイルミネーションバスツアー」を企画しましたが、急な決定でもあり、新美砂会全員にはお声掛けできず、有志のみでの企画決行となりました。次回は準備を早めに行い皆様にご案内できるようにいたします。

◇お願い

新美砂会会員は現在住所登録者数約2万人余りですが、残念ながら総会や地方支部総会などの校友会諸行事に参加される方は少数です。会報やホームページ、登録アドレスへ送信される情報に関心をおもちいただき、積極的にご参加くださるよう、お願いいたします。まずは「都市大校友オンライン」に御登録ください。



■共通教育部

人文・社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は、人社教育部門・体育教育部門・教職教育の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追求し、さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう、日々努力を重ねています。

◎人文・社会科学教育部門 教授 新保 良明

人社部門は人文学3、社会科学3、計6名から構成されています。そして全学の教養科目を見据えることを求められているため、専任教員は世田谷キャンパスに所属するものの、横浜、等々力の両キャンパスも視野に入れて、兼任教員、非常勤講師が担当する教養科目の適切な開講と配置を考えています。

教養科目は1990年代初頭の大学設置基準の緩和によりないがしろにされてきた過去を持ちますが、近年は逆に企業から大学卒業にふさわしい教養が求められるようになってきました。ところが、たとえば、キリスト教における原罪を話題にする場合、残念ながらイヴが蛇を食べたことを挙げる学生が認められます。グローバル化が叫ばれて久しい中、我々がいかに教養を学生に身につけさせていくかは焦眉の急と言えるでしょう。

類似科目を整理するという全学的方針の下、平成30年度からいくつかの教養科目が廃止されることになっています。ただし、学生の科目履修に支障をきたす規模ではありません。その一方で、学生相談室長を務められている心理学の渡辺昭彦講師が平成29年度末をもって定年退職されます。我々、人社部門としては、新たな局面に対処していく所存です。

◎体育教育部門 教授 渡辺 一郎

体育部門では、相変わらず渡辺教授が2年後に控えたワールドカップの次回開催国担当としても忙しい日々を送っています。また1年間NZに留学していた椿原准教授が帰国し、現地で学んだ指導法を我々教員も参考に、授業に反映させるべく工夫を凝らしながら日々取り組んでおります。体育実技種目では楽しく運動量を増やすよう努力し、スポーツ健康論の講義では体力低下が人体に及ぼす影響や誰でもできる体力トレーニング法等を理論的にわかりやすく教授しています。しかしクォーター制度の導入により、選択科目としての体育実技の履修が困難な状況になってきています。YCでは毎年300名前後、TCでは毎年100人前後の学生が体育実技を履修しておりましたが、平成29年度は大幅な減少になってしまいました。このような状況を改善するためにも、将来的に体育科目の必修化を目指し、体育スタッフが協力して実現に向けて更なる努力をしていく所存です。

◎教職教育部門 教授 井上 健

平成29年度から中込幸二准教授が着任しました（定年退職された岩崎敬道教授の後任）。中込先生は、小・中学校長のキャリアを有し、理論と実践の往還が必要な教職課程の要としての役割を担ってください。渡邊大輔、鈴木邦夫両講師は、教科教育系の授業を通じて、学生たちに「学ぶことのおもしろさ・難しさ」を体感させるとともに、教員採用試験対策にも力を注いでいます。例年、延べ数で約70名が教員免許を取得し、そのうち10名程度が教壇に立ちます。就職状況が厳しさを増すなかで、今年も東京都・横浜市・川崎市で数学や理科の専任教員が誕生しており、本学卒業生のますますの活躍が期待されます。

自然科学系

主任教授 山口 勝己

平成29年度は、12名の専任教員、4名の客員教授、58名の非常勤講師という体制で、主に工学部・知識工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。化学・生物・地学教育部門については、知識工学部自然科学科の教員が担当し、数学、物理部門についても自然科学科の教員と連携して教育を行っています。また、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

◎数学教育部門

金川教授、井上准教授、古田准教授、森田教育講師（平成29年度から）の4名体制に加え、自然科学科の吉野教授、橋本教授、中井准教授と連携して教育研究活動を行っています。また、客員教授を北垣郁雄・広島大学名誉教授、野原勉・本学名誉教授、知沢清之・管理工学研究所（株）相談役に委嘱し、数学部門の教育と研究に関して助言をいただいています。

◎物理教育部門

長年にわたり物理教育部門をとりまとめてこられた岩松教授が平成28年度で定年退職し、新たに西村先生をお迎えしました。現在は長田教授、須藤准教授、西村准教授、中村講師、右近教育講師及び菅谷技師捕の6名に加えて、自然科学科の飯島教授、門多講師と連携して教育研究活動を行っています。また客員教授を岡部豊・首都大学東京名誉教授に委嘱し、物理部門全体の教育と研究に関して助言をいただいています。

◎情報教育部門

山口教授、安井講師の2名体制で、主に工学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

外国語共通教育センター 主任教授 吉田 国子

平成29年度外国語共通教育センターは、新メンバーを加えてのスタートとなった。4月1日付けで着任した畑和樹講師と、9月1日付けで着任した小谷延良教育講師である。これにより世田谷キャンパスでは、教授2名、准教授3名、講師、助手各1名、横浜キャンパスでは、教授1名、准教授1名、講師、助手各1名、等々力キャンパスでは、教授1名、講師1名、加えて第二外国語で担当の先生も含めて60名を超える非常勤講師の先生方という大所帯で、外国語教育にあたっている。

英語教育においては、統一シラバス、全学科共通テキスト、共通試験で必修科目を指導する「都市大スタンダード英語カリキュラム」も7年目を迎え、色々な課題も見えてきた。これを踏まえて、平成29年度は、平成31年度からの「都市大英語新カリキュラム」を策定した。まず、外国語共通教育センターのディプロマポリシーを検討し、「外国語を駆使して国際社会で積極的に活動できる人材を育成する」、「異文化を理解し尊重する姿勢を身につけ多文化共生社会に順応するための「発想力」「表現力」「対話力」「共感力」「問題解決力」を習得した人材を育成する」、「将来のキャリアを見据えて自律的な語学学習を計画しそれを実行できる人材を育成する」を三本の柱とし、これを具現化するものとして、「都市大英語新カリキュラム」を作成した。詳細は割愛するが、英語が得意な学生のみならず、不得意で苦手意識が強い学生でも、学期が終わる頃には「学んだな」と実感できるような授業作りを目指していきたいと考えている。卒業生の皆様からも、今後とも暖かなご支援を賜りたく思っている。

平成28年度事業報告

- 会報の発行
 - 会報「都市」第4号を平成29年3月19日に発行し、学位授与式当日に新正会員に配布、4月中旬に正会員に郵送した。また、在校生（準会員）へもオリエンテーション時に配布した。
- 幹事会、常任幹事会・各委員会及び各付置部会の開催
 - 幹事会⇒○平成28年4月23日（土）に開催し、平成27年度事業報告、平成27年度収支報告及び監査報告、平成28年度事業計画案、平成28年度収支予算案、会則・細則改正案を承認した。
 - 平成29年3月18日（土）に開催し、平成28年度事業報告、平成28年度（仮）収支決算及び（仮）同貸借対照表、平成29年度事業計画案、平成29年度予算案、会則の一部変更案を承認した。（平成28年度収支決算書及び貸借対照表は、メール審議にて、平成29年5月18日承認。）
 - ・常任幹事会⇒11回開催し、必要事項の審議・承認を行った。
 - ・各委員会（総務、企画、財務、広報、支部、学生支援）及び各付置部会⇒全委員会及び全付置部会合計64回開催した。
- 総会、懇親会の開催
 - ・定期総会及び懇親会を平成28年6月18日（土）世田谷キャンパスにおいて開催し、平成27年度事業報告、平成28年度事業計画案、平成27年度収支決算報告及び監査報告、平成28年度収支予算案、会則・細則の改正案を承認した。総会後、山崎直子氏の講演会を開催した。
- 「校友会のあり方検討会」を会長諮問機関として継続
 - 総務委員会内に「校友会のあり方検討会」を組織し、9月24日（土）の検討会では「校友会における学科同窓会の活動」、「各種支援のあり方」、「運営財源の確保」について活発な討議を行った。
- IT活用による「コミュニケーション情報システム」の導入
 - 会員名簿システムについて、大学が導入とデータ管理を行い、校友会が連携活用することで合意し、両者により業者選定を行った。
- 会員相互の親睦、交流
 - ・賀詞交歓会 平成29年1月23日（月）に世田谷キャンパス ラウンジオークで、96名の参加により開催した。
 - ・親睦会（親睦ゴルフ大会）平成28年9月20日（火）に開催を予定していたが、台風16号の接近のため中止となった。
 - 〈世界遺産・富岡製糸場バスツアー〉平成28年10月15日（土）に36名の参加により実施した。
 - ・夢キャンパスセミナー（第2回）の開催 平成28年11月27日（日）に「二子玉川キャンパス」において、「震災後のサポートとまちづくりー福島県いわき市久之浜・大久保地区との実践でのこれから」をテーマに、栗田祥弘（H12 建築）氏並びに、いわき市「ふるさとだより」記者の鈴木伴栄氏から支援活動の紹介があった。
 - ・大学/校友会主催（せたがやeカレッジ後援、如学会協力）の「講演会」開催「軍艦島をはかる」をメインテーマに、全3回の開催（夢キャンパス）を予定。講師は、濱本卓司名誉教授並びに中村陽一（S38 建築）氏。3月25日（土）の第1回は105名が受講した。
- 各学科同窓会への支援
 - 以下について支援費を配分した。
 - ①一律支援→8学科各150,000円、6学科各100,000円 ②会報発行支援→3学科 ③大学の名を高める事業支援→1学科 ④新学科同窓会活動支援→1学科 ⑤特別支援→新美砂会（旧武蔵工業会と旧美砂会の地方支部統合推進費用）⑥学科研究会との連携事業支援→3学科 ⑦就職活動支援事業→4学科
- 支部の機能強化・連携強化
 - ・大学の連携強化（地域の高校、保護者）①地方での保護者会に合わせて、支部総会を実施した。→2支部 ②支部総会での講演会に大学と連携して、地域の高校生の参加があった。→1支部
 - ・地方支部のネットワーク強化（旧武蔵工業会・旧美砂会の統合推進継続）⇒地方支部立ち上げ（宮崎、石川）、統合推進は継続中。支部総会、親睦会への他支部からの参加交流推奨
 - ・地方支部へ活動内容に合わせた助成金の給付を行った。
 - ①支部総会助成（総会実施支部）→35支部 ②親睦行事助成（各種親睦行事開催支部）→26支部 ③支部発足準備支援→2支部 ④役員会開催助成（一律支援）→39支部（休眠支部を除く）
 - ・現役学生の就職活動支援、母校受験者への大学紹介について支部総会出席の際、本部から卒業生へ依頼を行った。
 - ・大学と後援会主催の「大学と保護者との連絡会」（地方開催）へ地方支部からの出席→各地方支部に出席を依頼、Uターン就職等の助言、支部現況等を紹介した。（支部からの出席16会場、22名）
- 体育系クラブ及び文化系クラブ同窓会との連携強化
 - ・クラブ同窓会等に本部から出席し、交流を図った。
- 在校生への支援
 - ・大学が企画した ①海外インターンシップ、②毎日学べる英会話、③インタナショナルラウンジ、④TOEIC検定料、⑤朝活100円朝食に助成した。
 - ・海外研修支援会への支援
 - 海外で研修する学生に対して費用を貸与している東京都市大学海

- 外研修支援会へ助成した。（平成27年度から4年間各150万円）
 - ・技術士第1次合格者へ受験料を助成
- 在校生への就職活動支援（校友会プロジェクト）
 - ・校友会として初めての「進路相談会」を1月18日（水）に開催し、企業35社（67名）、学生113名が参加した。
 - ・卒業生の紹介による海外インターンシップを大学と連携して実施した。（3社へ6名派遣）
 - ・海外インターンシップの受け入れについて大学と連携して支援を行った。（5名）
 - ホームカミングデーの共催
 - ・校友会及び大学教職員による実行委員会で協議のうえ、キャンパス毎のホームカミングデーを実施した。参加状況（卒業生、お迎え側の出席者数）は以下のとおりであった。
 - 平成28年6月11日（土）横浜キャンパス（48名、39名）
 - 平成28年10月30日（日）世田谷キャンパス（285名、84名）
 - 平成28年10月30日（日）等々力キャンパス（70名、41名）
 - キャンパス毎の学園祭に参加
 - ・世田谷祭において会員向け憩場所として「ラウンジ」を設置した。
 - 各種支援のための寄付・協賛金の仕組み構築
 - ・寄付（〔維持会費〕1口2千円）依頼の趣意書を作成し、会報「都市」第4号発送時（平成29年4月）に同封することを決定した。
 - 学位授与式関係
 - 〈校友会賞授与〉学業優秀で、将来社会での活躍が期待される各学科又は専攻毎に各1名計18名に対して校友会賞を授与した。
 - 〈学位記ホルダー贈呈〉卒業生全員に学位記ホルダーを贈呈した。
 - 〈ガーデンパーティ実施〉大学と共催で学位授与式後にガーデンパーティを行なった。
 - 東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ（旧武蔵工業会館）の活用と運営
 - ・校友会との協業による会館の有効活用と運営及び利便性向上による有効活用の増大⇒校友会側から会館の役員として着任し、会館との一体化を図った。また、校友会から、年間で定額支払いを行なうことによって、校友会員の会議室使用料を無償とした。
 - ・会館リニューアル費用の融資を行なった。
 - 功労者表彰等
 - ・支部運営に尽力した支部長退任者8名を功労者として表彰した。また、叙勲受章者2名にお祝い金を贈呈した。

平成29年度事業計画

- 組織運営 ①総会・幹事会・常任幹事会・各委員会・付置部会・「ワーキング検討会」の実施 ②「校友会のあり方検討会」を会長諮問機関として継続実施 ③「年間実施スケジュール」の提示・情報共有・実施 ④「寄付金募集」の運用開始
- 広報活動 ①ICTによるコミュニケーション基盤の導入と活用 ②「校友会ホームページ」の活用・普及推進 ③校友会会報「都市」第5号の発行
- 会員交流
 - 校友会イベント ①講演会・懇親会・賀詞交歓会等の開催 ②親睦行事・相互交流会・セミナー等の企画・開催 ③「校友会功労者表彰」の継続実施
 - 母校行事への参画と連携 ①世田谷・横浜・等々力各キャンパス「ホームカミングデー」の共催 ②世田谷・横浜・等々力各キャンパス「学園祭」参加支援 ③学位授与式：「校友会賞」の授与、ガーデンパーティの共催
 - 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画 ①校友会館との協業による事業運営の実施 ②利便性向上・「利用予約システム」の有効活用 ③取締役及び監査役担当業務の遂行
- 同窓会活動支援
 - 地方支部活動の支援 ①地方支部への活動助成金の給付 ②就職活動支援、受験生への母校紹介支援活動強化 ③「大学と保護者との連絡会」への参加支援 ④大学と連携した地域の高校、企業、保護者との関係強化 ⑤地方支部のネットワーク強化（旧武蔵工業会・旧美砂会の統合推進の継続・地区企画事業）
 - 職場支部活動の支援 ①職場支部との連携強化 ②職場支部発足応援 ③在学生のインターンシップ企業受入れ支援
 - 学科同窓会の活動支援 ①学科同窓会活動支援
 - 体育会系、文化系クラブ OB/OG 会の活動支援
- 在学生・母校支援活動
 - 在学生の支援活動 ①就職支援：「企業研究会」・「進路相談会」の実施 ②インターンシップ派遣先企業の紹介・提示 ③「学科研究会」及び「学生団体連合会」との連携・支援
 - 校友会が給付支援する事業 ①「夢に翼を授けよう」（海外インターンシップ）基金への給付 ②「語学力向上教育」への給付支援（継続） ③「100円朝食」給付支援（継続） ④「海外研修支援会」への貸与支援（継続） ⑤「緊急奨学金」の貸与（継続）

平成 28 年度 収支決算

平成28年度 収支決算書 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)			
(単位：円)			
科 目	予算額	決算額	増減
【事業活動収入】			
会費収入	87,360,000	81,177,550	-6,182,450
・終身会費収入	85,410,000	79,945,000	-5,465,000
・定例会費収入	1,950,000	1,232,550	-717,450
定期総会懇親会会費収入	800,000	472,000	-328,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	150,000	0
その他収入	1,000,000	610,550	-389,450
その他収入	2,100,000	2,162,607	62,607
・祝金	100,000	100,000	0
・配送費立替他	2,000,000	2,062,607	62,607
前期未収入金収入	0	17,070,000	17,070,000
期末未収入金（－）	0	-22,945,000	-22,945,000
預り金収入	0	219,228	219,228
貸付金返済収入	0	132,000	132,000
事業活動収入計	89,460,000	77,816,385	-11,643,615
【事業活動支出】			
事業費支出	50,865,000	43,450,056	-7,414,944
・正会員向事業支出	30,030,000	27,346,694	-2,683,306
総会懇親会費支出	1,730,000	1,787,243	57,243
会報関連支出	7,300,000	6,884,400	-415,600
学科同窓会・支部支援費支出	17,300,000	15,689,588	-1,610,412
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	1,000,000	594,683	-405,317
親睦行事費支出	700,000	390,780	-309,220
・学生支援事業費支出	17,335,000	12,730,625	-4,604,375
在学生支援費支出	14,765,000	10,452,545	-4,312,455
卒業支援費支出	2,570,000	2,278,080	-291,920
・大学事業支援事業費支出	3,500,000	3,372,737	-127,263
ホームカミングデー費支出	3,500,000	3,372,737	-127,263
管理費支出	32,418,936	22,499,895	-9,919,041
人件費支出	11,430,000	11,329,840	-100,160
備品費支出	200,000	0	-200,000
事務関連費支出	2,888,936	2,943,918	54,982
会議費	4,000,000	3,524,087	-475,913
システム管理費等支出	6,200,000	191,802	-6,008,198
雑費	4,700,000	4,510,248	-189,752
予備費	3,000,000	0	-3,000,000
預り金支出	0	180,484	180,484
周年積立金支出	5,000,000	5,000,000	0
会館貸付金支出	12,600,000	12,600,000	0
事業活動支出計	88,283,936	83,730,435	-4,553,501
当期収支差額	1,176,064	-5,914,050	-7,090,114
前期繰越収支差額	179,503,478	169,503,478	-10,000,000
次期繰越収支差額	180,679,542	163,589,428	-17,090,114

平成28年度 貸借対照表
平成29年3月31日

(単位：円)			
科 目	金額	科 目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
1 流動資産		流動負債	
現金預金	163,589,428	預り金	219,228
未収入金	22,945,000	流動負債合計	219,228
短期貸付金	784,000	負債合計	219,228
流動資産合計	187,318,428		
2 固定資産		III 正味財産の部	
投資有価証券	150,633,752	正味財産	380,576,952
関連会社株式	15,070,000	正味財産合計	380,576,952
長期貸付金	12,774,000		
周年積立金	15,000,000		
固定資産合計	193,477,752		
資産合計	380,796,180	負債及び正味財産合計	380,796,180

2018 年 3 月 19 日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.05

発行人 吉田 勝

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区 玉堤 1-28-1

東京都市大学 1 号館 4 階

Tel.03-3703-3862 Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL http://www.tcu-alumni.jp

印刷所 大日本印刷株式会社

平成 29 年度 収支予算

平成29年度 収支予算書 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)			
(単位：円)			
科 目	平成29年度予算	平成28年度決算	増減
【事業活動収入】			
会費収入	84,559,000	81,177,550	-3,381,450
・終身会費収入	71,865,000	79,945,000	8,080,000
・定例会費収入	694,000	1,232,550	538,550
定期総会懇親会会費収入	500,000	472,000	-28,000
賀詞交歓会会費収入	150,000	150,000	0
その他収入	44,000	610,550	566,550
・維持会費	12,000,000	0	-12,000,000
その他収入	1,800,000	2,162,607	362,607
・祝金	100,000	100,000	0
・配送費立替他	1,700,000	2,062,607	362,607
前期未収入金収入	0	17,070,000	17,070,000
期末未収入金（－）	0	-22,945,000	-22,945,000
預り金収入	200,000	219,228	19,228
貸付金返済収入	806,000	132,000	-674,000
事業活動収入計	87,365,000	77,816,385	-9,548,615
【事業活動支出】			
事業費支出	48,170,000	43,450,056	-4,719,944
・正会員向事業支出	30,900,000	27,346,694	-3,553,306
総会懇親会費支出	1,700,000	1,787,243	87,243
会報関連支出	6,200,000	6,884,400	684,400
学科同窓会・支部支援費支出	17,300,000	15,689,588	-1,610,412
キャンパス支援費支出	2,000,000	2,000,000	0
賀詞交歓会費支出	600,000	594,683	-5,317
親睦行事費支出	600,000	390,780	-209,220
会館使用料	2,500,000	0	-2,500,000
・学生支援事業費支出	13,970,000	12,730,625	-1,239,375
在学生支援費支出	11,500,000	10,452,545	-1,047,455
卒業支援費支出	2,470,000	2,278,080	-191,920
・大学事業支援事業費支出	3,300,000	3,372,737	72,737
ホームカミングデー費支出	3,300,000	3,372,737	72,737
管理費支出	27,630,000	22,499,895	-5,130,105
人件費支出	11,430,000	11,329,840	-100,160
備品費支出	0	0	0
事務関連費支出	3,000,000	2,943,918	-56,082
会議費	3,000,000	3,524,087	524,087
ICTコミュニケーション運営費支出	4,700,000	191,802	-4,508,198
雑費	2,500,000	4,510,248	2,010,248
予備費	3,000,000	0	-3,000,000
預り金支出	200,000	180,484	-19,516
周年積立金支出	5,000,000	5,000,000	0
会館貸付金支出	0	12,600,000	12,600,000
事業活動支出計	81,000,000	83,730,435	2,730,435
当期収支差額	6,365,000	-5,914,050	-12,279,050
前期繰越収支差額	163,589,428	169,503,478	5,914,050
次期繰越収支差額	169,954,428	163,589,428	-6,365,000

功労者表彰

五百川 好則氏	(S42 経営・前山形支部長)
田中 浩作氏	(S39 土木・前兵庫支部長)
岡田 宏氏	(S41 生産機械・前徳島支部長)

受賞慶祝

服部 健一氏	(S41 機械)
平成 29 年度知的財産権制度功労者表彰	
「知財功労賞 特許庁長官賞」	

会報編集委員会

部長：

今井 章久 (S44 通信)

編集長：

小林 哲男 (S47 土木)

委員：

服部 圭子 (S50 家政)

植村 俊子 (S52 家政)

加藤 祐子 (S53 国文)

勝又 英明 (S55 建築)

衣斐喜美子 (S55 家政)

藤井 研一 (S57 建築)

CONTENTS 2018 March Toshi vol.05

1-2 巻頭言

1 東京都市大学 校友会 副会長 川辺 加代子

1 東京都市大学 校友会 副会長 吉村 正伸

2 東京都市大学 学長 三木 千壽

3-4 ご報告

3 平成 29 年度定期総会

3 東京都市大学と校友会共催講演会

3 第 5 回校友会親睦ゴルフ大会

3 第 3 回校友会夢キャンパスセミナー

3 ホームカミングデー

3 ビール工場と南極観測船見学会

3 平成 29 年度第 1 回校友会のあり方検討会

4 校友会進路相談会

4 支部だより

5-14 地方支部だより

15-16 職場支部だより

17-20 クラブ OB・OG 会だより

20-28 学科・学科同窓会だより

29-30 平成 29 年度定期総会

29 平成 28 年度事業報告・平成 29 年度事業計画

30 平成 28 年度収支決算・平成 29 年度収支予算

16 東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ

22 表紙解説

24 編集後記

平成30年度 定期総会等のご案内

期 日： 平成30年5月19日（土）
場 所： 東京都市大学 世田谷キャンパス
スケジュール： 12：30 受付
 13：00 定期総会 21C教室
 14：45 講演会 21C教室
 16：00 懇親会 メモリアルホール

定期総会 議題： 1. 平成29年度事業報告
 2. 平成29年度収支決算報告及び監査報告
 3. 会長の承認
 4. 監査役の承認
 5. 会則の改定

講演会 講 師： 東京都市大学 メディア情報学部 准教授 李 洪千（リ・ホンチョン）氏
テーマ： 北朝鮮に対する国際圧力とほほえみ外交の展望 ―朝鮮半島の現在と未来を読み解く―

懇親会 会 費： 3,000円 （平成30年3月学部卒業生及び卒業生の家族同伴者1名につき1,000円）
 会報「都市」第5号に同封の振込み用紙にて、5月6日までに振込みください。



平成30年度ホームカミングデーの予定

横 浜キャンパス	平成30年 6月9日（土）
世田谷キャンパス	平成30年11月3日（土） 又は11月4日（日）
等々力キャンパス	平成30年11月3日（土） 又は11月4日（日）



平成29年度世田谷キャンパス ホームカミングデー

「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員の情報に関わる会員へのサービス向上を図るため、「都市大校友オンライン（<https://koyu-online.tcu.ac.jp>）」の運用を開始しました。

詳しくは、2月上旬にお届けした「ご利用の手引き」をご覧ください。

- ご利用に必要な「会員ID」、「初期パスワード」は「ご利用の手引き」と共に、2月上旬に皆様にお届けしました。取り扱いには十分ご注意ください。未だ届いていない場合は、校友会までお問い合わせください。
- 初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要です。
- 現在登録されている情報の確認・変更をお願いします。
- 登録されているメールアドレス、住所宛にご案内や会報「都市」をお届けします。
- WEB版会員名簿での個人情報開示の可否の設定ができます。
- WEB版会員名簿のうち開示情報の検索・閲覧ができます。

